

811.56  
N2490

内閣官報局編纂

送假名法  
全

東京  
八尾版

077013-000-3

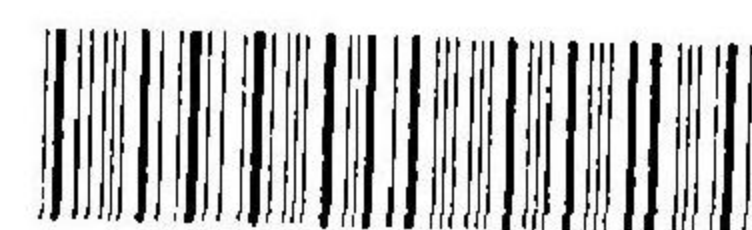
811.56-N2490

送假名法

内閣官報局／編

M27.5

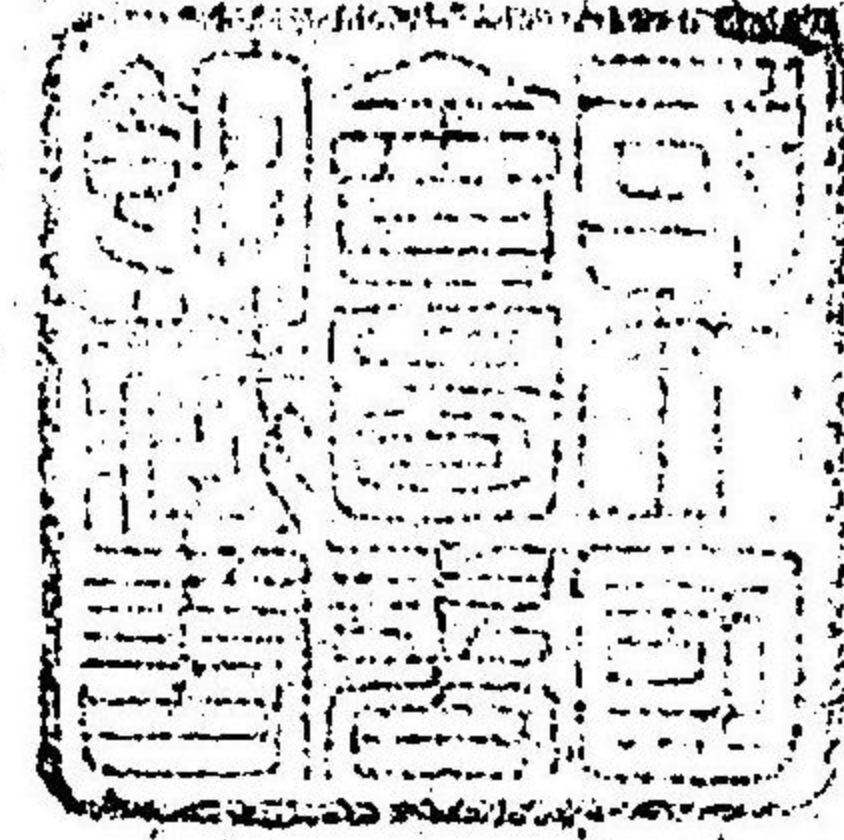
DAC-0192



録

録

所

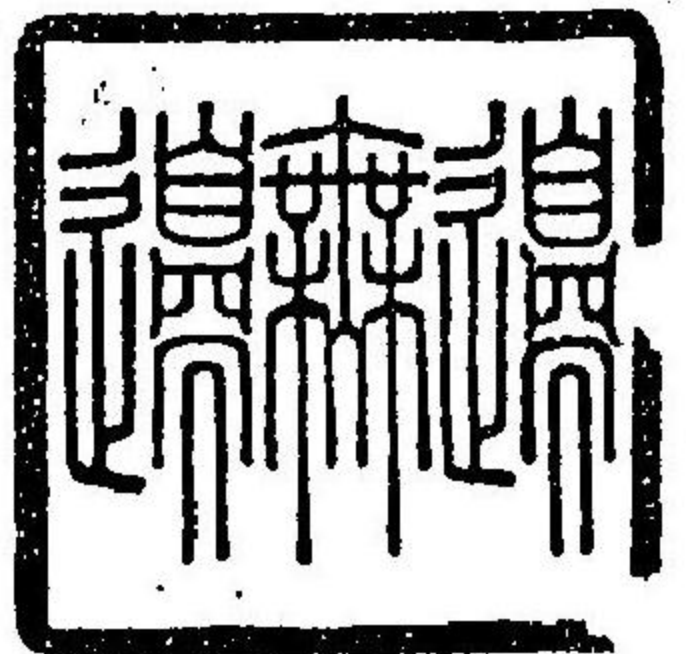


319492

通

之

正三位渡邊國氏書



本邦純粹和漢文ハ今ヤ官民ノ實用ニ適セス而シテ真假兩字ノ混淆錯綜セル  
 モノヲ以テ上下普通ノ文章ト爲ス所謂假名交リ文是ナリ乃チ其眞字ハ衆語  
 ノ首本ヲ寫シテ主形ヲ爲シ假字ハ衆語ノ末尾ヲ寫シテ客勢ヲ爲ス主ハ定靜  
 シテ移ラス客ハ往來シテ變ス故ニ其經用ニ及ヒテハ定靜ナルモノハ惑フコ  
 ト少ク往來スルモノハ誤リ易シ蓋シ自然ノ理ナリ彼麗文ノ心裁ヲ亂シ至理  
 ノ感動ヲ殺クト否トハ實ニ此假字ノ用法如何ニ存スルナキヲ知ランヤ抑  
 今體文ニ於ケル假字ノ用ハ手足ノ人體ニ於ケルカ如キカ身體ノ動作ハ手足  
 ニ依リ文意ノ變化ハ假字ニ依ル是ヲ以テ假字ノ用法整ハサランカ寔ニ人體  
 ニ於テ手足ノ疾アルニ異ナラス人ニハ之ヲ不具ト云フ故ニ文ニハ之ヲ不文  
 ト謂フヲ得ヘキナリ然ルニ世人多ク假字ヲ度外ニ措キ握管ノ際取捨斷續一  
 ニ其意ニ任セ放誕支離ノ文字ヲ臚列シテ愧ル所ヲ知ラス偶假字ノ用法ヲ  
 説ク者アレハ頗ル迂拘ノ論ト爲ス察セサルノ甚シキナリ

前官報局長高橋健三君夙ニ之ヲ慨シ局僚ト俱ニ討窮シテ本書ヲ修撰シ官報編輯ノ用ニ供セリ爾來他官廳ヨリ照會請求スル者陸續絶エス尙ホ地方多數ノ操觚者ニシテ此書ヲ盼望スル者アルヲ知リ仍テ今回書肆ノ請ヲ准シ特ニ應用ノ篇ヲ増補シ出版發售セシム敢テ學海ノ指針ヲ以テ擬スルニアラス聊カ輿文輔道ノ一端ニ供スト云爾

明治二十七年四月

官報局長 奥田義人

本邦現用ノ文章ハ真假兩字ノ混交體ニシテ眞字ハ總テ衆語ノ首本ヲ寫シ假字ハ總テ衆語ノ末尾ヲ寫ス衆語ノ末尾ヲ寫ス所ノ假字ヲ送假名ト稱ス送假名ノ用ハ言語ノ意義ヲ析ケ語句ノ接續ヲ明ニシ以テ通讀ニ便ニスルニ過キス然レトモ古來其用法一定セス甚シキハ一編ノ文章中同一ノ言語ニシテ其送假名ヲ二三ニシ讀者ヲシテ更ニ適從スル所ヲ知ル能ハサラシムルモノアリ是レ尙ホ可ナリ其言語ノ意義、語句ノ接續區々ニ涉リ爲ニ語勢滯滯シテ通讀ニ便ナラサルニ至リテハ其弊ナシトセス是レ蓋シ送假名ニハ自ラ一定ニシテ且ツ普通ナルヘキ原則ノ在ルアルモ之ヲ講究セスシテ徒ラニ箇々ノ言語々々句ニ就キ隨時任意ノ送假名ヲ附スルノ姑息ニ坐スルノミ之ニ反シテ一定ノ原則ヲ講究シ送假名法ヲ定ムルトキハ獨リ其區々ノ煩ヲ避クルノミナラス素ト其標準ヲ原則ニ取リテ箇々ノ言語々々句ニ取ラサルカ故ニ博ク送假名ヲ諳記スルノ勞ヲ去ルコト亦寡シト爲サ、ルナリ

本書ハ主トシテ右ニ掲クル所ノ旨趣ヲ體シ又本局官報編輯ノ經驗ニ徴シテ  
間實際ノ便宜ヲ稽考シ以テ總則四條及各則二十三條ヲ定メ且ツ各則ニ釋  
例ヲ附シテ其應用ヲ明ニセリ蓋シ送假名法ハ此二十七則ニ於テ之ヲ悉セリ  
是故ニ僅ニ此二十七則ヲ諳シ其應用ヲ愆ルナケレハ送假名ノ一定ヲ得ルコ  
ト果テ容易ナルノミナラス再ヒカノ言語々句ニ就キ區々タル任意ノ送假名  
ヲ施シ意義ノ明晰ト語形ノ一定トヲ闕クノ弊ニ陷ルコトモ亦之ヲキナ期ス  
ヘキナリ

本書原案ハ局員文學士濱田健次郎ノ起稿ニ係リ稿成ルノ後更ニ局員ノ審査  
ニ付シ數回ノ討議ヲ經テ多少ノ修正改竄ヲ加ヘ頃日始テ之ヲ完成セリ今回  
本書ヲ印刷シテ局員ニ頒ツニ方リ聊カ其編纂ノ旨趣及顛末ヲ記ス

明治二十二年四月

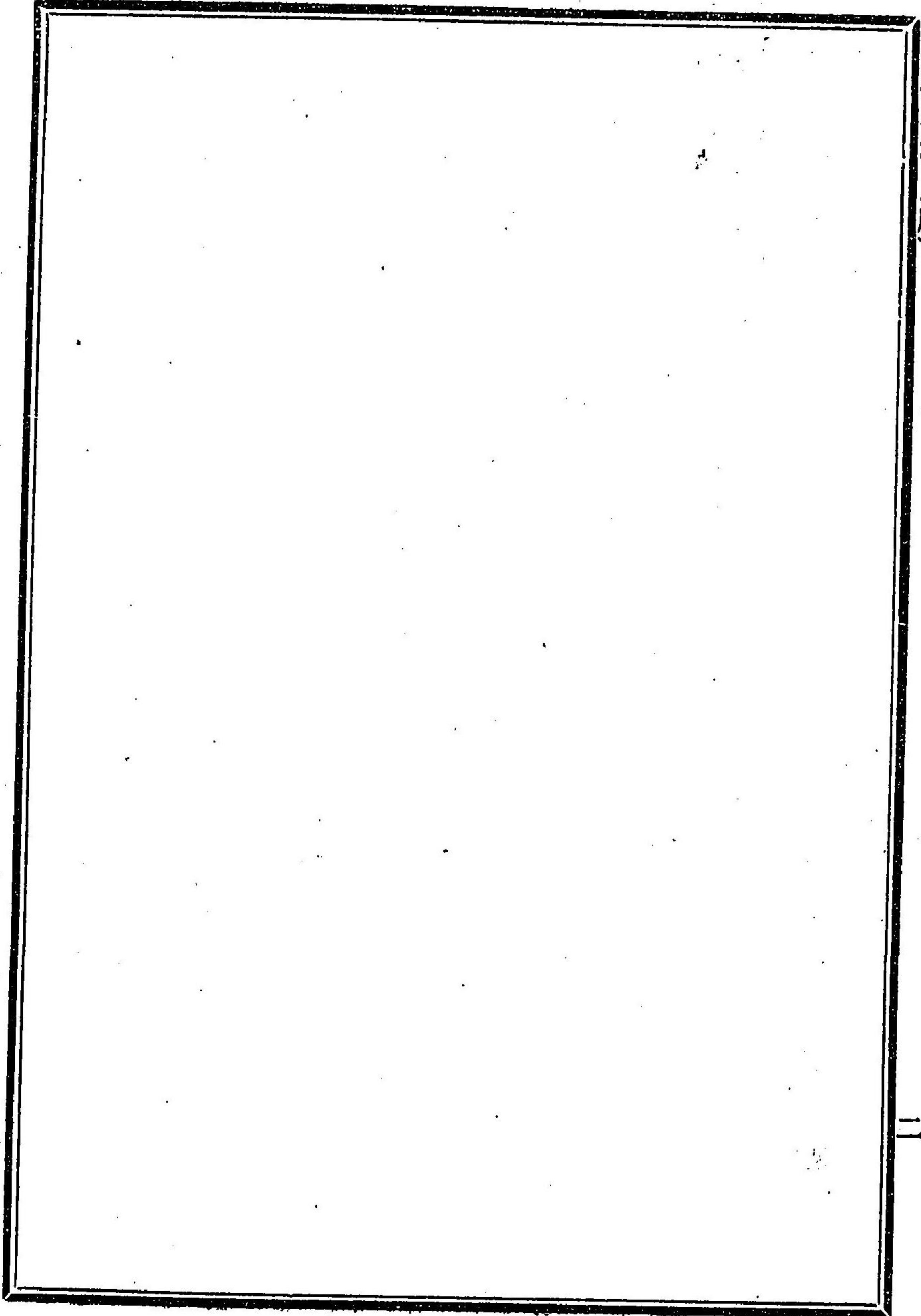
官報局長 高橋健三

送假名法序

我みくはのことにはいちちやうのりありそれかきあるすもしのつかひ  
さまにはいちちやうのりなしされはその時にたかひてその人によりて  
はたらし詞やてはをばやさまくにもしをかきてそれよむへきたよりとせ  
りこれを今の世にはおくりかなとなむいふなるこのおくり假名にはいちち  
やうのりなしといへどもむかしより今にいたるまでにさのみまとはしか  
らさりしはこと葉にいちちやうのりあるかゆゑなりことはいちちやう  
のりあらんはそれよむれたよりとせんもしのつかひさまにゆいちちや  
うのりあらむかたなむことによろしかるへきとてこたひ濱田のぬしのま  
るしいてられたる送假名法これなりことわりまことばにさることなりとおほ  
ゆるまへに卷のはしめはひとことかくむ

明治二十五年六月

黒川 眞 頼



送假名法目錄

○總則

第一原則

第二原則

第一變則

第二變則

○名詞

第一則

第二則

第三則

○代名詞

第四則

○形容詞

第五則

第六則

第七則

第八則

第九則

○動詞

第十則

一

三

七

九

一四

第十一則

○副詞

第十三則

第十四則

第十五則

第十六則

第十七則

○接續詞

第十八則

第十九則

第二十則

○後置詞

第二十一則

○咏嘆詞

第二十二則

第二十三則

○音便ノ事

○略字及濁音ノ事

二八

三五

三七

三六

四〇

四三

# 送假名法

## ○總則

假名交リ文ニ於ケル眞名ト假名トノ關係ハ眞名ハ言語ノ首本ノ變化セサル所ヲ寫シ假名ハ其末尾ノ變スル所ヲ寫スモノナリ兩者ノ關係正ニ斯ノ如クナルヨリシテ左ニ示ス所ノ送假名法ノ二大原則ヲ生ス

第一原則 語尾變化セサルモノハ送假名ヲ附セス

第二原則 語尾變化スルモノハ其變化スル所ヨリ寫シテ送假名トス

右ハ送假名法ノ二大原則ナリ然リト雖モ間古來ノ慣用ト便宜トニ依リ左ノ如キ變則ニ從フ



第一變則 語尾變化セサルモノト雖モ慣用ト便宜トニ從ヒ送假名ヲ附スルコトアリ

第二變則 語尾變化スルモノト雖モ罕ニハ慣用ト便宜トニ從ヒ送假名ヲ附セサルコトアリ

今邦語八品詞ヲ右四則ニ配當スレハ大要左ノ如シ

名詞、代名詞及咏嘆詞 第一原則

動詞及形容詞 第二原則

副詞、接續詞及後置詞 第一變則

動詞ヨリ轉成セル名詞及副詞 第二變則

右大別配當ハ固ヨリ大體ニ就キテ之ヲ言フモノニシテ各自例外ナキニアラス其詳細ハ各品詞ノ條ニ就キテ之ヲ了知スヘシ

○名詞

凡ソ名詞ニ三種アリ(一)本然名詞(二)轉成名詞(三)合成名詞是ナリ右三種名詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第一則 本然名詞ハ總テ送假名ヲ附セス

第二則 (甲)形容詞ノ轉成名詞ハ總テ送假名ヲ附ス

(乙)動詞ノ轉成名詞ハ通常送假名ヲ附セス但シ同字異義ナルモ義ナルモノハ便宜送假名ヲ附ス

第三則 合成名詞ハ通常送假名ヲ附セス但シ同字異義ナルモノハ便宜送假名ヲ附ス

〔釋例〕

(第一)本然名詞 本然名詞トハ事物ニ命シタル名稱ニシテ其語尾變化スルモノニアラス故ニ本然名詞ニハ送假名ヲ附セス其例左ノ如

日	草	神	衣
月	木	人	机
星	春	男	書
雨	秋	女	花
雪	東	手	鳥
風	西	足	聲
山	上	飯	夢
川	下	酒	時

(第二)轉成名詞 轉成名詞トハ他詞ノ轉シテ名詞ト成レルモノヲ謂フ轉成名詞ニ二種アリ即チ一(甲)ハ形容詞ヨリ轉成セルモノ一(乙)ハ動詞ヨリ轉成セルモノ是ナリ

(甲) 形容詞ヨリ轉成セル名詞ニ四種アリ(一)「キ」若クハ「ナル」ヲ履ム形容詞ヨリ轉成セルモノニシテ其語尾ニ「サ」ヲ帶ヒ(二)「シキ」ヲ履ム形容詞ヨリ轉成セルモノニシテ其語尾ニ「シサ」ヲ帶ヒ(三)「ケキ」ヲ履ム形容詞ヨリ轉成セルモノニシテ其語尾ニ「ケサ」ヲ帶ヒ(四)「キ」ヲ履ム形容詞ヨリ轉成セルモノニシテ其語尾ニ

「ミ」ヲ帶フ而シテ此等四種ノ轉成名詞ハ皆其語尾ヲ寫シテ送假名トス其例左ノ如シ

(一)	重サ	輕サ	黒サ	白サ	遲サ	速サ
(二)	高サ	廣サ	太サ	深サ	遠サ	長サ
(三)	靜サ	速サ	明サ	平サ	美麗サ	苛酷サ
(四)	樂シサ	寂シサ	美シサ	苦シサ	甚シサ	烈シサ
(五)	賤シサ	親シサ	貧シサ	嬉シサ	悲シサ	怪シサ
(六)	爽ケサ	靜ケサ	遙ケサ	明ケサ	露ケサ	寒ケサ
(七)	安ケサ	長閑ケサ				
(八)	重ミ	厚ミ	青ミ	黒ミ	深ミ	高ミ
(九)	暖ミ	面白ミ	可笑ミ			

(乙) 動詞ヨリ轉成セル名詞ハ皆盡ク本然動詞ノ連動言ニシテ四段活用、中二段活用及一段活用ニ屬スル動詞ハ總テ五十音連ノ

第二段ノ音即チ「キ」「シ」「チ」「ヒ」「ミ」「イ」「リ」ノ音ヲ以テ轉シ其下  
 二段活用ニ屬スル詞ハ皆五十連音ノ第四段ノ音即チ「エ」「ケ」「セ」  
 「テ」「ネ」「ヘ」「メ」「エ」「レ」「エ」ノ音ヲ以テ轉ス此等動詞轉成名詞ハ  
 本然動詞ト判然區別セシムルタメ送假名ヲ附セス其例左ノ如シ

告	報	耻	譏	代	争	謠	貸	燒
受	戀	用	契	借	樂	問	嘶	向
届	老	媚	眠	曲	悲	疑	離	嘆
妨	悔	錯	釣	張	惱	思	勝	趣
助	(以上中二段活用)	綻	愁	恨	浴	願	打	飽
瘦	寄	尋	募	滯	祭	憎	妬	戰
			募	滯	祭	憎	妬	戰
			祭	滯	憎	妬	戰	語
			滯	憎	妬	戰	語	惑
			憎	妬	戰	語	惑	舞
			妬	戰	語	惑	舞	蒸
			戰	語	惑	舞	蒸	
			語	惑	舞	蒸		
			惑	舞	蒸			
			舞	蒸				
			蒸					

束	染	流	試
教	覺	懼	鑑
譬	費	戲	顧
衰	支	晴	(以上一段活用)
答	榮	飢	(以上二段活用)
改	聞	見	
定	寒		
留			

又一字ニテ二様ノ意義アル動詞轉成名詞及音訓兩用ノモノニシ  
 テ特ニ其訓讀ヲ要スルモノハ時宜ニ依リ送假名ヲ附シ以テ之ヲ  
 分別スルコトアリ其例左ノ如シ

預	預	起	起	定	定
悔	悔	向	向		
樂	樂	營	營		

又動詞ノ連名言ヲ其儘ニ若クハ之ニ「コト」ヲ加ヘテ名詞ノ如ク  
 用フルコトアリ此場合ニ於テハ動詞本然ノ語尾ヲ寫スヘシ其例  
 左ノ如シ

往クヲ送り 來ルヲ迎フ 入ル(又ハ入ルコト)ヲ量リ 出ツル(又ハ出ツルコト)ヲ量ラス

(第三)合成名詞 合成名詞トハ二箇以上ノ詞ノ連合シテ熟語名詞ヲ成セルモノニシテ之ヲ分ケテ六種トス (一)本然名詞ト連合セルモノ (二)形容詞ト本然名詞ト連合セルモノ (三)形容動詞ト本然名詞ト連合セルモノ (四)本然名詞ト動詞轉成名詞ト連合セルモノ (五)本然動詞ト動詞轉成名詞ト連合セルモノ (六)形容詞ト動詞轉成名詞ト連合セルモノ是ナリ此六種ハ孰モ送假名ヲ附セサルヲ常トス 其例左ノ如シ

- (一) 水田 山櫻 春風 月夜 霜月 海魚 春蠶
- (二) 松茸 藍玉 鈴蟲 種紙 藁紙 毛絲 酒樽
- (三) 生絲 青物 厚紙 古手 長靴 淺瀨 古寺
- (四) 早業 白魚 薄茶 甘酒 太物 黑馬 新身

- (三) 枯草 塗板 蒔繪 乗物 織物 耀市 釣鐘
- (四) 襟卷 飛火 借屋 練言 卷烟草 摺附木 山崩
- (五) 芝居 冬著 水呑 筆立 毛拔 地押 車寄
- (六) 屈出 差支 見込 折合 問合 取扱 取取 立消
- (七) 繰替 取引 買進 見合 引受 受取 受取 立消
- (八) 早出 遠乗 古著 近附 太織 黒塗 早起

此等ノ合成名詞ノ内同字ニテ異義ヲ有スルモノハ便宜送假名ヲ附シテ以テ其孰ノ意義タルヤヲ判別スルヲ要ス例ヘハ入口ハ入り口又ハ入レ口ナリヤヲ判別スルタメ「リ」又ハ「レ」ヲ加ヘ預主ハ預ケ主又ハ預リ主ナリヤヲ判別スルタメ「ケ」又ハ「リ」ヲ加ヘ押入ハ押入り又ハ押入レナリヤヲ判別スルタメ「リ」又ハ「レ」ヲ加フルカ如キ是ナリ

○代名詞

凡ソ代名詞ニ三種アリ(第一)人代名詞(第二)指示代名詞(第三)疑問代名詞是ナリ

右三種代名詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第四則 人代名詞、指示代名詞及疑問代名詞ハ孰モ送假名ヲ附

セス

〔釋例〕

(第一)人代名詞 人代名詞トハ人名ニ代用セラル、モノニシテ之ヲ

再別シテ二トス(一)真稱人代名詞(二)假稱人代名詞是ナリ

(二) 真稱人代名詞トハ本來人名ヲ代示スルモノナリ其例左ノ如

朕 我 吾 余 予 己

汝 彼

(二) 假稱人代名詞トハ他物ノ名ヲ取りテ代名詞ト爲シタルモノ

ナリ其例左ノ如シ

身 僕 童 妾 此方 私  
手前 君 主 其方 其許 那方

真假兩種ノ人代名詞ノ複數モ亦送假名ヲ附セス其例左ノ如シ

我等 余等 我輩 吾輩  
吾曹 我儕 身共 私共 僕等  
汝輩 君等 汝等 主達 汝達  
彼輩 彼等

(第二)指示代名詞 指示代名詞トハ或ル人或ル事物ヲ指示シテ其名

詞ノ代ニ用ヒラル、モノナリ其例左ノ如シ

是 此 維 斯 之 其

夫 彼

(第三)疑問代名詞 疑問代名詞トハ人ナリ又事物ナリ判然之ヲ指定シ能ハサル場合ニ其人又ハ其事物ヲ代表疑問スルタメニ用フルモノナリ其例左ノ如シ

誰 孰 何

以上三種ノ代名詞ニシテ「カ」又ハ「ノ」ヲ以テ受ケラルトキハ總テ其「カ」又ハ「ノ」ヲ寫シテ送假名トスヘキモノナレトモ彼 此 其 我ノ四詞ハ便宜ニ任シテ之ヲ寫サス

○形容詞

凡ソ形容詞ニ四種アリ(第一)本然形容語尾ヲ履ム形容詞(第二)他種ノ詞ヲ履ム形容詞(第三)指示形容詞(第四)數形容詞(第五)合成形容詞是ナリ

右五種ノ形容詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第五則 本然形容語尾ヲ履ムモノハ其語尾ヲ寫シテ送假名トス

第六則 他種ノ詞ヲ履ムモノハ其語尾ヲ寫シテ送假名トス

第七則 指示形容詞ヲ漢字ニテ寫ストキハ總テ送假名ヲ附セス

第八則 數形容詞ハ送假名ヲ附セス但シ一ヨリ九ニ至ル數形容詞ニシテ音訓兩讀ノモノヲ特ニ訓讀セシムルトキハ便宜「ツ」等ノ語尾ヲ寫シテ送假名トスルコトアルヘシ

第九則 合成形容詞ハ唯下ニ連リタル詞ノ語尾ヲ寫シテ送假名トス

〔釋例〕

(第一)本然形容語尾ヲ履ム形容詞 本然形容語尾ヲ履ム形容詞ニ  
 三種アリ(一)其語尾ニ「キ」ヲ履ムモノ(二)其語尾ニ「シキ」ヲ履ムモノ  
 (三)其語尾ニ「ケキ」ヲ履ムモノ是ナリ此等三種共ニ其語尾ヲ寫シテ  
 送假名トス其例左ノ如シ

(一)	善キ	長キ	高キ	古キ	宜シキ	寂シキ	烈シキ	空シキ
(二)	悪キ	短キ	低キ	尊キ	悪シキ	騒シキ	正シキ	
(三)	早キ	太キ	白キ	憎キ	樂シキ	賤シキ	同シキ	
(四)	遅キ	細キ	黒キ	強キ	苦シキ	貧シキ	怪シキ	
(五)	遠キ	薄キ	明キ	脆キ	嬉シキ	親シキ	甚シキ	
(六)	近キ	厚キ	暗キ	全キ	悲シキ	美シキ	睦シキ	

(一)	明ケキ	遙ケキ	静ケキ	平ケキ	露ケキ	寒ケキ
(二)	爽ケキ	安ケキ	長閑ケキ			

又外ニ一種アリ即チ動詞ヨリ轉シテ此(二)種ニ入レルモノ是ナリ  
 此等ハ皆動詞本來ノ語尾變化スル所ヨリ之ヲ寫シテ送假名トス其  
 例左ノ如シ

願ハシキ	歎カハシキ	頼モシキ	好マシキ
羨マシキ	痛マシキ	喜ハシキ	混ハシキ

又「マシキ」「カマシキ」「ラシキ」等ノ語尾モ亦總テ之ヲ寫シテ送假名  
 トス

(第二)他種ノ詞ヲ履ム形容詞 他種ノ詞ヲ履ム形容語尾ニ九種アリ  
 (一)「ナル」(二)「タル」(三)「ケル」(四)「セル」(五)「テル」(六)「ヘル」(七)「メル」  
 (八)「レル」(九)「ヲ履ムモノ」是ナリ此等九種共ニ其語尾ヲ寫シテ送  
 假名トス其例左ノ如シ

此「ナル」ノ語尾ハ漢語ニ附セラル、コトアリ其例左ノ如シ

静ナル	明ナル	平ナル	速ナル	愚ナル
朗ナル	緩ナル	暖ナル	誠ナル	健ナル
詳ナル	鮮ナル	盛ナル	稀ナル	專ナル
斜ナル	斑ナル	圓ナル	疎ナル	細ナル

(二)

美麗ナル	寛大ナル	有名ナル	高尚ナル	卑劣ナル
貴重ナル	簡短ナル	温順ナル	残忍ナル	壮大ナル
過キタル	朽チタル	老イタル	舊リタル	枯レタル
肥エタル	鑄タル	重リタル	立テタル	續キタル
曲リタル	乾キタル	濕リタル	錆ヒタル	破レタル

此「タル」ヲ履ム形容詞ハ皆動詞ノ連動言即チ四段活用、ラ行變格、中二段活用、一段活用及三段活用ノ詞ハ五十連音ノ(イ)ノ横行ヨリ變化シ又下二段活用ノ詞ハ(エ)ノ横行ヨリ變化スルモノナルカ故ニ

今形容詞ヲ成スニ方リテモ動詞本來ノ送假名附法ニ從ヒ右例ニ示セルカ如ク動詞語尾ノ變化スル所ヨリ寫シテ送假名トス(動詞ノ條ヲ參看スヘシ)

又此「タル」ノ語尾モ亦漢語ニ附セラル、コトアリ其例左ノ如シ

確乎タル	儼然タル	窈窕タル	渺茫タル	錚々タル
堂々タル	漫々タル	寂寞タル	判然タル	漠然タル
(三) 畫ケル	貫ケル	琢ケル	燒ケル	
(四) 寫セル	増セル	鑱セル		
(五) 立テル	穿テル	滿テル	鎖セル	
(六) 浮ヘル	漂ヘル	狂ヘル	整ヘル	
(七) 沈メル	包メル	富メル	病メル	
(八) 曲レル	反レル	懸レル	燃レル	



(九) (イ)種々ノ風説 色々ノ花 夥多ノ貨物 百般ノ事  
(ロ)露ノ命 夢ノ浮世 花ノ顔 月ノ眉

右ノナル語尾ニ二意アリ一即チ(イ)ハ助動詞ノ「ナル」ト同義ナルモノニシテ一即チ(ロ)ハ「如ク」トノ意ニ解スル所ノ「ノ」是ナリ

(第三指示形容詞)

指示形容詞トハ事物ノ位置關係ヲ指示スルモノ

ニシテ「コノ」「ソノ」「カノ」ノ三詞アルノミ若シ漢字ニテ之ヲ寫ストキハ共ニ送假名ヲ附セス其例左ノ如シ

此世	此國	此時	此身
其人	其家	其價	其事
彼地	彼書	彼言	彼物

但シ右三詞ハ便宜全ク假名ニテ寫スコトアルヘシ

(第四數形容詞)

數形容詞ハ基數、序數共ニ語尾變化セス故ニ送假名

ノ附スヘキナシ其例左ノ如シ

四十七士	十六羅漢	二十五菩薩	三十二相
四書	五經	四季	八景
第一條	第二款	第三卷	第四號

一ヨリ九ニ至ル數形容詞ニシテ音訓兩讀ノモノヲ特ニ訓讀セシムルトキハ便宜「ツ」等ノ語尾ヲ寫シテ送假名トスルコトアルヘシ

(第五合成形容詞)

合成形容詞トハ二語以上連合シテ形容詞ト成レ

ルモノヲ謂フ是等ノ形容詞ハ唯其下ニ連リタル詞ノ語尾ヲ寫シテ送假名トス其例左ノ如シ

薄暗キ	細長キ	青白キ	手輕キ	待遠キ
心易キ	意地悪キ	見苦シキ	輕くシキ	苦くシキ
手重ナル	重立ナル	年古リタル	氣強ナル	足弱ナル

○動詞

凡ソ動詞ニ四種アリ(第一)本然動詞(第二)延長動詞(第三)短縮動詞(第四)合成動詞是ナリ

右四種ノ動詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第十則 本然動詞ハ總テ其語尾ノ變化スル所ヨリ寫シテ送假名トス但シ同字異様ノ訓義アルモノニシテ其語尾同一ナルトキハ便宜一字ヲ増附シテ送假名トス

第十一則 延縮兩種ノ動詞ハ延ヒタルモ約リタルモ共ニ其語尾ヲ寫シテ送假名トス

第十二則 合成動詞ハ總テ下ニ連リタル詞ノ語尾ノ變化スル所ヨリ寫シテ送假名トス

〔釋例〕

(第一)本然動詞 本然動詞ニ五種アリ(一)四段活用(二)二段活用(三)中二段活用(四)下二段活用(五)一段活用作トス五種共ニ其語尾ノ變化スル所ヨリ寫シテ送假名トス左ニ各種活用ノ法ヲ示シテ以テ送假名ノ附法ヲ知ラシム

(一)四段活用 四段活用ノ動詞ハ五十連音ノ横行「ア」「イ」「ウ」「エ」ノ四段ニ轉シテ變化シ其縱行ハ「カ」「サ」「タ」「ハ」「マ」「ラ」ノ六行ニ限ルモノナリ其例左ノ如シ

將然言

連動言

終止言

使然言

カ行 行カ。 聞カ。 爲サ。 移サ。

カ行 行キ。 聞キ。 爲シ。 移シ。

カ行 行ク。 聞ク。 爲ス。 移ス。

カ行 行ケ。 聞ケ。 爲セ。 移セ。

ラ行	マ行	ハ行	タ行
祈 <sup>イ</sup> ラ <sup>ン</sup>	頼 <sup>マ</sup> マ <sup>ン</sup>	願 <sup>ハ</sup> ハ <sup>ン</sup>	待 <sup>タ</sup> タ <sup>ン</sup>
祈 <sup>イ</sup> リ	頼 <sup>マ</sup> ミ	願 <sup>ハ</sup> ヒ	待 <sup>タ</sup> チ
祈 <sup>イ</sup> ル	頼 <sup>マ</sup> ム	願 <sup>ハ</sup> フ	待 <sup>タ</sup> ツ
祈 <sup>イ</sup> レ	頼 <sup>マ</sup> メ	願 <sup>ハ</sup> ヘ	待 <sup>タ</sup> テ

此四段活用ニ屬スルモノ甚タ多クシテ動詞總數ノ八九分ハ此活用ノ詞ナリト謂フモ不可ナキカ如シ

此四段活用ニ屬スル二種ノ變格アリ一チ「ラ」行變格ト云ヒ一チ「ナ」行變格ト云フ

「ラ」行變格ニ屬スル動詞ハ唯有リノ一詞アルノミニシテ其

大體ノ活用ハ尋常四段活用ニ異ナルコトナシト雖モ其他詞ト續ク様ノ相同シカラサルヨリシテ變格ノ名ヲ得タリ即チ尋常四段活用ニ於テハ第三段即チ「ウ」ノ横行ハ終止言ト連名言トチ兼ネ第二段即チ「イ」ノ横行ハ全ク連動言ナリ然ルニ此「ラ」行變格ニ於テハ第二段即チ「イ」ノ横行ハ連動終止ノ兩言チ兼ネ第二段ハ專ラ連名言ナリ左ニ示ス所ヲ以テ之ヲ知レ

將然言	連動言	連名言	既然言
有ラ <sup>ン</sup>	終止言	有ル	使令言
	有リ		有レ

此有リト云フ詞ハ他ノ詞ト合シテ種々ノ助動詞チ成スモノニシテ其活用極テ廣大ナリ尙ホ委シキ事ハ下ノ短縮動詞ノ條ニ於テ言フヘシ

又此有リト云フ詞ハ諸他ノ四段活用ノ「ラ」行ニ屬スル詞ト同シク「アラン」「アリ」「アル」「アレ」「ト」「ラ」「リ」「ル」「レ」ニ變化シテ「ア」ノ音ハ動

カサルナ以テ有ラン、有リ、有ル、有レト有ナル眞字ニ「ラ」「リ」「ル」「レ」ノ假名ヲ附シテ送假名トスベキナレトモ世用ノ習慣ニ依リ茲ニハ全ク假名ニテ之ヲ寫ス即チ左ノ如シ

ア。ラ。ン。 ア。リ。 ア。ル。 ア。レ。

(附言) 居ラレ。 居リ。 居ル。 居レ。 ト活ク詞ハ先人皆之ヲ「ラ」行變格ニ入レタリ然レトモ今其活語ノ現用ヲ察スルニ全ク尋常ノ四段活用ニ異ナル所ナク且ツ其語調ノ四段活用ニ屬セシムル方遙ニ圓滑ナルヲ覺ユ故ニ茲ニモ之ヲ「ラ」行變格ニ入レスシテ尋常ノ四段活用ニ屬セシメタリ

「ナ」行變格 「ナ」行變格ハ往ヌ。 死ヌ。ノ二詞ニ限り將然言、連動言、終止言、連名言、既然言及使令言(希求言)孰モ其語尾ヲ變化スルモノナリ即チ左ノ如シ

將然言 連動言 終止言 連名言 既然言 使令言(希求言)

往<sup>イ</sup>ナ<sup>ン</sup> 往<sup>イ</sup>ニ 往<sup>イ</sup>ヌ 往<sup>イ</sup>ヌル 往<sup>イ</sup>ヌレ 往<sup>イ</sup>ネ  
死<sup>シ</sup>ナ<sup>ン</sup> 死<sup>シ</sup>ニ 死<sup>シ</sup>ヌ 死<sup>シ</sup>ヌル 死<sup>シ</sup>ヌレ 死<sup>シ</sup>ネ

(二三) 三段活用 三段活用ハ縱行ハ「カ」「サ」ノ二行ニ限り而シテ其橫行ハ各、異ニシテ「カ」行ニ屬スルモノハ「ユ」「キ」「ク」ノ二段ニ活キ「サ」行ニ屬スルモノハ「セ」「シ」「ス」ノ三段ニ活クモノナリ即チ左ノ如シ

將然言 連動言 終止言 連名言 既然言  
使令言  
カ行 來<sup>キ</sup> 來<sup>キ</sup> 來<sup>キ</sup> 來<sup>キ</sup> 來<sup>キ</sup>  
サ行 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup>

此三段活用ノ詞ハ右ニ擧ケタルヨリ外ニハアラヌ且ツ來ノ字ノ如キハ之ヲユ。キ。ク。クル。クレ。ト三段ニ活シテ用フルハ今日ニ在リテハ唯雅言ト俗言トニ限ルモノトナリテ尋常ノ文章ニハ皆之ヲ活シテ 來<sup>キ</sup>ラ<sup>ン</sup> 來<sup>キ</sup>リ 來<sup>キ</sup>ル 來<sup>キ</sup>レト四段ノ活用ト爲スニ至リタリ又 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup> 爲<sup>ス</sup>ト云フ詞ハ有リト謂フ詞ト同シク

他言ト合シテ其意ヲ活カシムルモノニテ其用甚タ廣シ但シ有リト  
 同シク假名ニテセシンスルモノト寫ス其例左ノ如シ

船出<sup>フナデ</sup>セン。 船出<sup>フナデ</sup>シ。 船出<sup>フナデ</sup>ス。 船出<sup>フナデ</sup>スル。 船出<sup>フナデ</sup>スレ。

物語<sup>モノガタリ</sup>セン。 物語<sup>モノガタリ</sup>シ。 物語<sup>モノガタリ</sup>ス。 物語<sup>モノガタリ</sup>スル。 物語<sup>モノガタリ</sup>スレ。

又漢語ヲ其儘ニ用フルトキハ皆此セシンスルモノナリ

活詞ヲ加ヘテ之ヲ活用ス此例左ノ如シ

製<sup>ツク</sup>セン。 製<sup>ツク</sup>シ。 製<sup>ツク</sup>ス。 製<sup>ツク</sup>スル。 製<sup>ツク</sup>スレ。

感<sup>カン</sup>セン。 感<sup>カン</sup>シ。 感<sup>カン</sup>ス。 感<sup>カン</sup>スル。 感<sup>カン</sup>スレ。

論<sup>ロン</sup>セン。 論<sup>ロン</sup>シ。 論<sup>ロン</sup>ス。 論<sup>ロン</sup>スル。 論<sup>ロン</sup>スレ。

決定<sup>ケツギ</sup>セン。 決定<sup>ケツギ</sup>シ。 決定<sup>ケツギ</sup>ス。 決定<sup>ケツギ</sup>スル。 決定<sup>ケツギ</sup>スレ。

陳述<sup>チンジュ</sup>セン。 陳述<sup>チンジュ</sup>シ。 陳述<sup>チンジュ</sup>ス。 陳述<sup>チンジュ</sup>スル。 陳述<sup>チンジュ</sup>スレ。

(三)中ニ一段活用 中ニ一段活用ハ横行「イ」「ウ」ノ一段ニ活キ縦行ハ  
 「カ」「タ」「ハ」「マ」「ヤ」「ラ」ノ六行ニ限ル其例左ノ如シ

將然言、連動言  
使令言

終止言

連名言

既然言

カ行	タ行	ハ行	マ行	ヤ行	ラ行
盡 <sup>ツク</sup> キ	朽 <sup>ク</sup> チ	強 <sup>ツク</sup> ヒ	媚 <sup>メ</sup> ヒ	恨 <sup>ク</sup> ミ	怨 <sup>ク</sup> ミ
過 <sup>ツク</sup> キ	朽 <sup>ク</sup> チ	強 <sup>ツク</sup> ヒ	媚 <sup>メ</sup> ヒ	恨 <sup>ク</sup> ミ	怨 <sup>ク</sup> ミ
下 <sup>ツク</sup> ル	朽 <sup>ク</sup> ツ	強 <sup>ツク</sup> フ	媚 <sup>メ</sup> フ	恨 <sup>ク</sup> ム	怨 <sup>ク</sup> ム
下 <sup>ツク</sup> ル	朽 <sup>ク</sup> ツ	強 <sup>ツク</sup> フ	媚 <sup>メ</sup> フ	恨 <sup>ク</sup> ム	怨 <sup>ク</sup> ム
下 <sup>ツク</sup> ル	朽 <sup>ク</sup> ツ	強 <sup>ツク</sup> フ	媚 <sup>メ</sup> フ	恨 <sup>ク</sup> ム	怨 <sup>ク</sup> ム
下 <sup>ツク</sup> ル	朽 <sup>ク</sup> ツ	強 <sup>ツク</sup> フ	媚 <sup>メ</sup> フ	恨 <sup>ク</sup> ム	怨 <sup>ク</sup> ム

此中二段活用ニ屬スル動詞ハ其數多カラスシテ此ニ舉ケタルモノ  
 、外ニハ起ク 生ク 落ツ 攀ツ 紅葉ツ 延フ 愁フ 生フ  
 戀フ 聾フ 錆フ 亡フ 滅フ 浴フ 報ユ 臥ユ 舊ル 等  
 ノ數語アルノミ

(四)下二段活用 下二段活用ハ横行「ウ」「エ」ノ二段ニ活キ縦行ハ

「ア」ヨリ「ワ」ニ至ル十行ニ亘ルモノニシテ四段活用ニ次キテ其數  
 甚タ多シ其例左ノ如シ

將然言、連動言  
 使令言

終止言

連名言

既然言

ア行	得	告	受	載	失
カ行	告	告	受	載	失
サ行	得	告	受	載	失
	得	告	受	載	失
	得	告	受	載	失
	得	告	受	載	失

タ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植
ナ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植
ハ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植
マ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植
ヤ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植
ラ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植
ワ行	捨	出	寢	尋	經	教	譽	改	消	覺	枯	顯	植

飢エ 飢ウ 飢ウル 飢ウレ

右下二段活用ノ動詞ハ其數實ニ多シト雖モ其ヤ行及ワ行ニ屬スル詞ハ甚タ少シ即チ「ヤ」行ニ於テハ右ニ出セル覺ユ、消ユ、ノ外ニハ  
聞ユ 見ユ 癒ユ 協ユ 寒ユ 越ユ 肥ユ 榮ユ 潰ユ  
聳ユ 生ユ 冷ユ 吠ユ 見ユ 燃ユ 萌ユ 痿ユ 冴ユ  
等ノ詞アルノミ又「ワ」行ニ於テハ右ニ出セル植ウ、飢ウノ外ニハ唯  
据ウ 蹴ウ 聳ウ

ノ三語アルノミ且ツ其内聳ウト云フ詞ハ實際用フルコト罕ニシテ又其蹴ウノ如キモ今日ニテハ

蹴 蹴ル 蹴レ

ト一段活用ノ如クニ用ヒラル、ニ至レリ

(五)一段活用 一段活用ノ動詞ハ第二段横行即チ「イ」ノ横行ニノミ活クモノニシテ縦行ハ「カ」「ナ」「ハ」「マ」「ヤ」「ワ」ノ六行ニ亘ル

モノナリ其例左ノ如シ

將然言、連動言  
使令言

終止言  
連名言

既然言

カ行 著

著ル

著レ

ナ行 煎 似

煎ル 似ル

煎レ 似レ

ハ行 干 噴 簸

干ル 噴ル 簸ル

干レ 噴レ 簸レ

見 顧

見ル 顧ル

見レ 顧レ

マ行 試 惟 鑑

試ル 惟ル 鑑ル

試レ 惟レ 鑑レ

ヤ行 射<sup>イ</sup> 鑄<sup>イ</sup> 居<sup>イ</sup> 行<sup>イ</sup>  
 ヲ行 射<sup>イ</sup> 鑄<sup>イ</sup> 居<sup>イ</sup> 行<sup>イ</sup>  
 射<sup>イ</sup> ル。 鑄<sup>イ</sup> ル。 居<sup>イ</sup> ル。 行<sup>イ</sup> ル。  
 射<sup>イ</sup> レ。 鑄<sup>イ</sup> レ。 居<sup>イ</sup> レ。 行<sup>イ</sup> レ。

此一段活用ニ屬スル動詞ハ其數甚々少クシテ右ニ舉ケタル所ヲ以テ略之ヲ盡セリ

又用ト率トノ兩詞ハ古人ノ用法ニ據レハ正ニ此一段活用ノ「ヤ」行ニ屬スルモノニテ

用<sup>モチ</sup>ル。 用<sup>モチ</sup>ル。 用<sup>モチ</sup>ル。  
 率<sup>ヒキ</sup>ル。 率<sup>ヒキ</sup>ル。 率<sup>ヒキ</sup>ル。

ト活カシムヘキナレトモ今慣用ニ從ヒ下二段活用トス即チ左ノ如ク

用<sup>モチ</sup>ヒ。 用<sup>モチ</sup>フ。 用<sup>モチ</sup>フル。  
 用<sup>モチ</sup>レ。 用<sup>モチ</sup>レ。 用<sup>モチ</sup>レ。

率<sup>ヒキ</sup>ヒ。 率<sup>ヒキ</sup>フ。 率<sup>ヒキ</sup>フル。 率<sup>ヒキ</sup>レ。

以上列舉シ來リタル所ヲ以テ動詞語尾ノ變化即チ活用ノ様ハ略シ開示シ得タリ而シテ其送假名ノ附法ハ總テ動詞語尾ノ變化スル所ヨリ寫スコト右諸活用ノ證例ヲ以テ示シタルカ如シ若シ動詞ノ送假名ニシテ正ニ其語尾ノ變化スル所ヨリシテ之ヲ寫サハ其法最モ見易キノミナラス又能ク其動詞ノ本義ヲ誤ルコトナカルヘシ依テ左ニ少シク例ヲ舉ケテ以テ動詞送假名法ノ忽ニスヘカラサルコトヲ知ラシム

○替ノ字ハ四段活用ニモ下二段活用ニモナルモノニシテ四段活用ノ時ハ自ラ活ク詞(即チ自動詞)トナリ下二段ニテハ他ニ活掛クル詞(即チ他動詞)トナルナリ故ニ若シ茲ニ入替ノ二字アリ其送假名ヲ附スルニ方リ單ニ入替テト書カハ入替<sup>イレカ</sup>テトモ又入替<sup>イレカ</sup>テトモ讀ル、モノナリ然ルニ入替リテトリテノ送假名ヲ附スルトキハ一目シテ



自動詞ナルコトヲ知り入替ヘテトヘテヲ寫ストキハ即チ他動詞ナルコトヲ知り得ヘシ是ヲ以テ送假名ノ完否ニ由リテ語意ニ明不明ノ差ヲ生スルコトヲ知ルヘシ下ニ舉クル諸語ヲ活カシテ以テ送假名法ノ必要ヲ知レ

自動詞	向キテ	續キテ	添ヒテ	立ナテ	染ミテ	止リテ	掛リテ	隔リテ
他動詞	向ケテ	續ケテ	添ヘテ	立テ	染メテ	止メテ	掛ケテ	隔テ
自動詞	退キテ	入リテ	從ヒテ	苦ミテ	進ミテ	預リテ	寄リテ	當リテ
他動詞	退ケテ	入レテ	從ヘテ	苦メテ	進メテ	預ケテ	寄セテ	當テ

以上ノ諸語ニ於テハ四段活用ハ自ラ活ク詞ニシテ下二段活用ハ他ニ活掛クル詞ナリ

重リテ	重ネテ	連リテ	連ネテ
開ケテ	挫ケテ	燒ケテ	覺メテ
切レテ	折レテ	開キテ	挫キテ
燒キテ	覺シテ	切リテ	折リテ
拔ケテ	解ケテ	消エテ	破レテ
割レテ	離レテ	割レテ	離レテ
拔キテ	解キテ	消シテ	破リテ
割リテ	離シテ	割リテ	離シテ

以上ノ諸語ニ於テハ下二段活用ハ自ラ活ク詞ニシテ四段活用ハ他ニ活掛クル詞ナリ

(第二)延長動詞 延長動詞トハ語勢ヲシテ圓和ナラシメンタメニ動詞本然ノ語尾ヲ延セルモノヲ謂フ其送假名法ハ總テ本然語尾ノ變

化スル所ヨリ之ヲ寫ス其例左ノ如シ

本語	申ス。	疑フ。	見シ。	聞カ。	語ル。
延ヒタル語	申サク。	疑フ。ラク。	見マク。	聞カマク。	語ラク。
本語	願フ。	思フ。	言ハ。	恐ル。	聞ク。
延ヒタル語	願ハク。	思ハク。	言ハ。マク。	恐ラク。	聞ク。ナラク。

(第二)短縮動詞

類凡ソ九種アリ其送假名法ハ總テ語尾ノ約リタル所ヨリ寫スモノナリ其例左ノ如シ

(一)「ク」「シク」及「ケク」ノ副詞語尾ト「有ラン」ト云フ詞ト連合シテ

カ。ラ。ン。シ。カ。ラ。ン。ケ。カ。ラ。ン。ト。約。レ。ル。モ。ノ

安ク有ラン。	面白ク有ラン。	嬉シク有ラン。	樂シク有ラン。	安ケク有ラン。	露ケク有ラン。
安カラン。	面白カラン。	嬉シカラン。	樂シカラン。	安ケカラン。	露ケカラン。

(二)副詞語尾ノ「ト」有ラント連合シテ「ナラン」トナレルモノ

平ニ有ラン。	靜ニ有ラン。	當然ニ有ラン。
平ナラン。	靜ナラン。	當然ナラン。

(三)「テ」及「ト」ナル助動詞ト「有ラン」ト合シテ「ダラン」トナレルモノ

落ナテ有ラン。	落ナダラン。
---------	--------

- 違ヒテ有ラン。 違ヒタラン。
- 渺茫ト有ラン。 渺茫タラン。
- (四)「キ」ト「有リ」ト合シテ「ケリ」トナレルモノ  
飽ケリ。 行ケリ。 置ケリ。 畫ケリ。
- (五)「シ」ト「有リ」ト合シテ「セリ」トナレルモノ  
押セリ。 寫セリ。 増セリ。 充セリ。
- (六)「ナ」ト「有リ」ト合シテ「テリ」トナレルモノ  
待テリ。 立テリ。 勝テリ。 持テリ。
- (七)「ヒ」ト「有リ」ト合シテ「ヘリ」トナレルモノ  
伴ヘリ。 駢ヘリ。 逢ヘリ。 舞ヘリ。
- (八)「ミ」ト「有リ」ト合シテ「メリ」トナレルモノ  
沈メリ。 含メリ。 住メリ。 積メリ。
- (九)「リ」ト「有リ」ト合シテ「レリ」トナレルモノ

織レリ。 居レリ。 釣レリ。 張レリ。

(第四)合成動詞 合成動詞トハ動詞ト動詞ト相合シテ成レルモノヲ謂フ此等ノ動詞ハ總テ下ニ連リタル詞ノ語尾ノ變化スル所ヨリ之ヲ寫シテ送假名トス其例左ノ如シ

- |       |      |       |       |
|-------|------|-------|-------|
| 差遣サン。 | 差遣シ。 | 差遣ス。  | 差遣セ。  |
| 行過キン。 | 行過ク。 | 行過クル。 | 行過クレ。 |
| 届出テン。 | 届出ツ。 | 届出ツル。 | 届出ツレ。 |
| 逢見ン。  | 逢見ル。 | 逢見レ。  |       |

以上四種動詞ノ終止言ヲ受ケテ隨分廣ク用ヒラル、「ヘシ」ト云フ詞ハ往々 可シ 可キ 可ク 可ケレ ト 「ベ」ノ音ヲ眞字ニテ寫スト雖モ茲ニハ總テ總名ニテ

- ヘシ。
- ヘキ。
- ヘク。
- ヘケレ。

ト寫スヘシ

○副詞

凡ソ副詞ニ五種アリ(第一)本然副詞(第二)轉成副詞(第三)合成副詞(第四)熟語副詞(第五)疊字副詞是ナリ  
右五種ノ副詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第十三則 本然副詞ハ今、唯、只、惟、皆、相、復ノ八詞ヲ除クノ外ハ總テ其語尾ノ一音ヲ寫シテ送假名トス

第十四則 轉成副詞ハ其語尾ノ「ニ」、「ク」、「シク」、「ケク」、「テ」又ハ「ト」ヲ寫シテ送假名トス

第十五則 合成副詞ハ合成セル品詞ノ本來所屬ノ法ニ從ヒ送假名ヲ附ス

第十六則 熟語副詞ハ總テ送假名ヲ附セス

第十七則 疊字副詞ハ疊音ノモノハ々々符ヲ附シ疊訓ノモノハ

〔釋例〕

符ヲ附ス

(第一)本然副詞 本然副詞ハ專ラ副詞トシテ用ヒラル、モノニシテ其語尾常ニ定リテ變化セス故ニ理ニ於テハ當ニ單用スヘキモノナレトモ今慣用ト讀續ノ便宜トニ依リ  
今、唯、只、惟、皆、相、復  
ノ八詞ヲ除キテハ總テ其語尾一音ヲ寫シテ送假名トス其例左ノ如シ

嘗 <sup>カッ</sup> テ	曾 <sup>カッ</sup> テ	將 <sup>マ</sup> ニ	方 <sup>マ</sup> ニ	當 <sup>マ</sup> ニ	應 <sup>マ</sup> ニ
既 <sup>マ</sup> ニ	已 <sup>マ</sup> ニ	業 <sup>マ</sup> ニ	終 <sup>マ</sup> ニ	遂 <sup>マ</sup> ニ	爲 <sup>マ</sup> ニ
故 <sup>ニ</sup>	盡 <sup>ソ</sup>	曷 <sup>ソ</sup>	何 <sup>ソ</sup>	焉 <sup>ソ</sup>	安 <sup>ソ</sup>
凡 <sup>ソ</sup>	殆 <sup>ト</sup>	幾 <sup>ト</sup>	況 <sup>ヤ</sup>	否 <sup>ヤ</sup>	頗 <sup>ル</sup>
乍 <sup>ナ</sup>	忽 <sup>ナ</sup>	未 <sup>ダ</sup>	尙 <sup>ホ</sup>	猶 <sup>ホ</sup>	仍 <sup>ホ</sup>

概 <sup>オホム</sup> ネ	最 <sup>モト</sup> モ	剩 <sup>アツク</sup> ヘ	躬 <sup>ミヅカ</sup> ラ	爭 <sup>イカ</sup> テ	故 <sup>カ</sup> レ
率 <sup>オホム</sup> ネ	豫 <sup>アラカシ</sup> メ	聊 <sup>イッパカ</sup> カ	自 <sup>ミヅカ</sup> ラ	爭 <sup>イカ</sup> カ	
蓋 <sup>オホ</sup> シ	專 <sup>モト</sup> ラ	先 <sup>マツ</sup> ツ	親 <sup>ミヅカ</sup> ラ	乃 <sup>スナハ</sup> チ	
恰 <sup>アタカ</sup> モ	獨 <sup>ヒト</sup> リ	聽 <sup>ミヅカ</sup> テ	豈 <sup>ア</sup> ニ	則 <sup>スナハ</sup> チ	
宛 <sup>アタカ</sup> モ	甚 <sup>ハナハ</sup> タ	儲 <sup>サ</sup> テ	寧 <sup>ア</sup> ロ	夫 <sup>スナハ</sup> レ	
尤 <sup>モト</sup> モ	太 <sup>ハナハ</sup> タ	自 <sup>オソク</sup> ラ	必 <sup>カナラ</sup> ス	是 <sup>コ</sup> レ	

(第二)轉成副詞

轉成副詞トハ他品種ノ詞ヨリ轉成セルモノニシテ  
 分テテ五種トス即テ(一)語尾ニ「ニ」ヲ履ムモノ(二)「ク」「シク」「ケク」  
 ナ履ムモノ(三)「テ」ヲ履ムモノ(四)「ト」ヲ履ムモノ(五)本語ヲ其儘副  
 詞トシテ用フルモノ是ナリ共ニ其語尾ヲ寫シテ送假名トス  
 (一)「ニ」ヲ履ム副詞 「ニ」ヲ履ム副詞ハ時又ハ所ヲ示ス名詞及代名  
 詞「ナル」若クハ「ノ」ヲ帶フル形容詞及數形容詞ヨリ轉成セルモ  
 ノナリ其例左ノ如シ

日 <sup>ヒ</sup> ニ	始 <sup>ハジ</sup> メ	内 <sup>ウチ</sup> ニ	横 <sup>ヨコ</sup> ニ	兹 <sup>ココ</sup> ニ	巧 <sup>タカ</sup> ク	速 <sup>スミヤカ</sup> ニ	誠 <sup>マコト</sup> ニ	細 <sup>ホソカ</sup> ニ	互 <sup>タガヒ</sup> ニ	嚴 <sup>オソク</sup> ニ	遽 <sup>ニハカ</sup> ニ	俱 <sup>トモ</sup> ニ
月 <sup>ツキ</sup> ニ	終 <sup>オハシ</sup> メ	外 <sup>ソト</sup> ニ	縱 <sup>タテ</sup> ニ	何 <sup>イナク</sup> 處 <sup>コ</sup> ニ	斜 <sup>ナメ</sup> ニ	愚 <sup>オロカ</sup> ニ	眞 <sup>マコト</sup> ニ	新 <sup>アラタ</sup> ニ	迭 <sup>カタミ</sup> ニ	大 <sup>オホ</sup> ニ	愍 <sup>ナメシ</sup> ニ	漫 <sup>ミダリ</sup> ニ
年 <sup>トシ</sup> ニ	右 <sup>ミダ</sup> ニ	上 <sup>カミ</sup> ニ	傍 <sup>カタハラ</sup> ニ	彼 <sup>カノ</sup> 處 <sup>コ</sup> ニ	遙 <sup>ハルカ</sup> ニ	懇 <sup>ネガヒ</sup> ニ	健 <sup>スコヤカ</sup> ニ	鮮 <sup>アサヤカ</sup> ニ	竊 <sup>ヒソカ</sup> ニ	罕 <sup>アヘ</sup> ニ	特 <sup>トク</sup> ニ	濫 <sup>ミダリ</sup> ニ
朝 <sup>アサ</sup> ニ	左 <sup>ヒダリ</sup> ニ	下 <sup>シモ</sup> ニ	中 <sup>ナカ</sup> ニ	其 <sup>ソノ</sup> 處 <sup>コ</sup> ニ	靜 <sup>シヅカ</sup> ニ	朗 <sup>ホガラク</sup> ニ	盛 <sup>サカリ</sup> ニ	專 <sup>モト</sup> ニ	仄 <sup>ホソカ</sup> ニ	稀 <sup>ヒツカ</sup> ニ	殊 <sup>マダ</sup> ニ	妄 <sup>マダリ</sup> ニ
夕 <sup>ユフ</sup> ニ	東 <sup>ヒガシ</sup> ニ	前 <sup>マヘ</sup> ニ	如何 <sup>イナク</sup> ニ	明 <sup>アカラカ</sup> ニ	暖 <sup>アタタカ</sup> ニ	詳 <sup>ツマビラカ</sup> ニ	僅 <sup>ワヅカ</sup> ニ	穩 <sup>オソク</sup> ニ	俄 <sup>ニハカ</sup> ニ	更 <sup>マダ</sup> ニ	頻 <sup>シバシバ</sup> ニ	
時 <sup>トキ</sup> ニ	西 <sup>ニシ</sup> ニ	後 <sup>ウシロ</sup> ニ	平 <sup>ヒラカ</sup> ニ	緩 <sup>ユルヤカ</sup> ニ	具 <sup>ツク</sup> ニ	纒 <sup>リツカ</sup> ニ	恣 <sup>ホシイマ</sup> ニ	猝 <sup>ニハカ</sup> ニ	共 <sup>トモ</sup> ニ	荐 <sup>ツキリ</sup> ニ		

忽ニ<sup>ユルギク</sup> 假ニ<sup>カリ</sup> 常ニ<sup>ツネニ</sup> 重ニ<sup>オモク</sup>  
 美麗ニ<sup>ウツクシク</sup> 寬大ニ<sup>ヒロシク</sup> 苛酷ニ<sup>シツク</sup> 丁寧ニ<sup>テイネク</sup> 輕卒ニ<sup>ケイソク</sup>  
 一ニ<sup>イツニ</sup> 二ニ<sup>ニニ</sup> 第三ニ<sup>サンニ</sup>

(二)「ク」「シク」「ケク」ヲ履ム副詞 「ク」「シク」「ケク」ヲ履ム副詞ハ「キ」  
 「シク」若クハ「ケキ」ヲ履メル形容詞ヨリ轉成セルモノナリ其例左

如シ	善ク	遠ク	細ク	高ク	明ク	嬉ク	賤ク
惡ク	近ク	太ク	低ク	暗ク	悲ク	貧ク	
早ク	長ク	薄ク	白ク	重ク	樂ク	寂ク	
遲ク	短ク	厚ク	黒ク	輕ク	苦ク	驚ク	

親シク	正シク	明シク	靜シク
怪シク	烈シク	爽シク	平シク
空シク	美シク	遙シク	露シク
宜シク	涼シク	安シク	寒シク

○又一種動詞一轉シテ形容詞ニ入り再轉シテ副詞ト爲レルモノアリ其送假名ハ動詞語尾ノ變化スル所ヨリシテ寫スコト猶ホ形容詞ニ於ケルカ如シ其例左ノ如シ

願ハシク 歎カハシク 紛ラハシク  
 頼モシク 好マシク 羨マシク

(三)「テ」ヲ履ム副詞 「テ」ヲ履ム副詞ハ動詞ヨリ轉成セルモノナリ其例左ノ如シ

初テ	始テ	甫テ	定テ	極テ
凡テ	都テ	渾テ	總テ	敢テ

肯テ	以テ	却テ	反テ	因テ
依テ	就テ	尋テ	次テ	強テ
兼テ	豫テ	追テ	重テ	續テ

右動詞ヨリ轉成セル副詞ノ送假名ハ正則ニ據ルトキハ當ニ動詞語尾ノ變化スル所ヨリ寫スヘキモノニシテ例ヘハ極メテ始メテ總ヘテ因リテ就キテ等ノ如クニ寫スヘキナレトモ今慣用ニ從ヒ右ニ示セル如ク單ニ「テ」ノミヲ寫ス方動詞ト區別スルタメ却テ便宜ナルモノ、如シ故ニ茲ニハ正則ニ據ラズシテ變則ニ從フ

(四)「ト」又ハ「トシテ」ヲ履ム副詞 「ト」又ハ「トシテ」ヲ履ム副詞ハ漢語ノ語尾ニ「タル」ヲ帶ヒテ形容詞ヲ爲セルモノヨリ轉成セルモノナリ其例左ノ如シ

寂然ト。 確乎ト。 窈窕ト。 錚々ト。

(五)本語ヲ其儘副詞トシテ用フルモノ 本語ヲ其儘副詞トシテ用フルモノハ便宜語尾一字ヲ寫シテ送假名トス其例左ノ如シ

初メ。 始メ。 元ト。 素ト。 固ト。

但シ「ヨリ」ニテ此等ノ詞ヲ受クルトキハ「ヨリ」ノミヲ寫シテ送假名トス其例左ノ如シ

初ヨリ。 始ヨリ。 元ヨリ。 素ヨリ。 固ヨリ。

(第三)合成副詞 合成副詞ハ數詞連合シテ副詞ヲ爲セルモノニシテ其送假名ノ附法ハ總テ本來所屬ノ法ニ從フ其例左ノ如シ

是故ニ	此故ニ	其故ニ	何故ニ	是ニ於テ
是ヲ以テ	是ノ如ク	斯ノ如ク	何ヲ以テ	之カタメニ
是カタメ	細長ク	青白ク	手輕ク	待遠ク
蒲暗ク				

心易ク 見苦シク 手重ク

(第四)熟語副詞

熟語副詞ハ送假名ヲ附セス其例左ノ如シ

大凡	大抵	大概	太約	大略	一切
萬一	過半	總體	大體	全體	畢竟
到底	今般	過般	今日	昨日	明日
昨今	方今	現今	目下	當時	往時
隨時	即今	輓近	近頃	不日	比年
前年	幾計	若干	各自	漸次	逐一
逐次	追次	早晚	流石	只管	
今後	以來	爾後	爾來	以上	以下
第一	第三	兩度	數度	數回	

但シ一度二度ノ如ク度數ヲ示ス副詞ニシテ訓讀スルモノハ左ノ送假名ヲ附ス

一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ  
 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ  
 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ  
 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ  
 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ 一タビ

又再ノ字ニハ單ニ「ヒ」ノミヲ寫シテ送假名トス

(第五)疊字副詞

疊字副詞トハ同音又ハ同訓ヲ重ネテ副詞ト爲シタ

ルモノニシテ同音ノモノニハ「々」符ヲ附シ同訓ノモノニハ「々」符ヲ附ス其例左ノ如シ

(一)同音ヲ重ネタルモノ

往々	日々	時々	歲々	漸々
處々	方々	區々	箇々	一々
近々	代々	萬々	懇々	的々

(二)同訓ヲ重ネタルモノ

抑々	倍々	益々	愈々	彌々
屢々	數々	各々	人々	夫々
次々	會々	偶々	適々	諸々



交マヒ 間マヒ 世ヨ 常ツネ 折マヒ  
 熟ツラ 吳シ 緩ユル

○接續詞

接續詞ニ本然ノモノアリ他詞ヨリ轉シタルモノアリ又數詞相連  
 リタルモノアリ共ニ其數僅少ナルヲ以テ今一々其類ヲ分タス  
 接續詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第十八則 又、亦、及ノ三詞及就中、加之等ノ熟字接續詞ハ總テ

送假名ヲ附セス

第十九則 前則外ノ接續詞ニシテ數詞連合ニアラサルモノハ

便宜其語尾一音若クハ數音ヲ寫シテ送假名トス

第二十則 數詞連合ノ接續詞ハ總テ各品本然ノ送假名法ニ從

フ

[釋例]

(第一)送假名ヲ附セサル接續詞 送假名ヲ附セサル接續詞ニ單字

ノモノト熟字ノモノトノ二アリ其例左ノ如シ

又マタ 亦モトモト 及オヒ 就中ナカニ 加之ナカニ 設若タトヘバ 假令タトヘバ 縱令タトヘバ

(第二)送假名ヲ附スヘキ接續詞 送假名ヲ附スヘキ接續詞ニ語尾

一音ヲ寫スモノト數音ヲ寫スモノトノ二アリ其例左ノ如シ

(一)語尾一音ヲ寫シテ送假名トスルモノ

但タ 若モシ 設モシ 倘モシ 將ハ  
 且カ 蓋カ 乃ナ 即スナハチ 則スナハチ  
 故コト 苟イフ 縱タトヘバ 假タトヘバ 或アル  
 雖イフ 竝ナラニ 尋イフ 兼カネ 而シカモ

(二)語尾數音ヲ寫シテ送假名トスルモノ

而シテ シカ 而ルニ カ 然ラハ シカ 然レハ シカ 然ルニ シカ

然レトモ シカ 若クハ シカ 何トナレハ ナ 否ラサレハ シカ

(第三)數詞相連リタル接續詞 數詞相連リタル接續詞ハ總テ各品

詞本來ノ送假名法ニ從フ其例左ノ如シ

是故ニ コト 且ツ又 カ 若シ又 モ 然リト雖モ シカ

然ラハ則チ シカ 然リ而シテ シカ 然ルチ況ヤ シカ 之ニ加フルニ コレ

○後置詞

後置詞ニ三種アリ(第一)主格後置詞(第二)賓格後置詞(第三)兩屬後置詞是ナリ

後置詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第二十一則 後置詞ハ元來其性質送假名ニ類スルモノナルカ

故ニ三種共ニ總テ假名ニテ之ヲ寫シ別ニ送假名ヲ

附セス

〔釋例〕

(第一)主格後置詞 主格後置詞ハ主位ニ在ル名詞、代名詞又ハ動詞

ノ後ヲ受クルモノナリ其例左ノ如シ

ハ ガ ノ モ ズ

ヤ ヨ コソ ヨリ カラ

(第二)賓格後置詞 賓格後置詞ハ賓位ニ在ル名詞、代名詞又ハ動詞

ノ後ヲ受クルモノナリ其例左ノ如シ

チ ニ ヘ ト マデ

(第三)兩屬後置詞 兩屬後置詞ハ主賓兩位ノ後ヲ受クルモノナリ其

例左ノ如シ

サヘ タニ スラ タメ

以上諸語ノ内「ヨリ」「マテ」「タメ」ノ三詞ハ往々漢字ニテ從自ヨリタメ爲メト寫スコトアレトモ此等モ皆假名ニテ寫スナ可トス

○咏嘆詞

咏嘆詞ニ二種アリ(第一)漢字ヲ用フルモノ(第二)假名ニテ寫スモノ是ナリ第二種ノ咏嘆詞ノ送假名法ハ左ノ如シ

第二十二則 漢字ヲ用フル咏嘆詞ハ總テ送假名ヲ附セス

第二十三則 假名ニテ寫スモノハ別ニ送假名ヲ附セス

〔釋例〕

(第一)漢字ヲ用フル咏嘆詞 漢字ヲ用フル咏嘆詞ハ總テ送假名ヲ

附セス其例左ノ如シ

嗚呼ウフ 吁嗟ウサ 噫イ 嘻ヒ

(第二)假名ニテ寫ス咏嘆詞 假名ニテ寫ス咏嘆詞ハ別ニ送假名ノ

附スヘキナシ其例左ノ如シ

カナ ヤ ヨ カ

右等ノ咏嘆詞ノ内「カナ」「ヤ」「ヨ」ノ如キハ句調ニ依リテ 哉カ 乎ハ ト

漢字ニテ寫スコトモアルヘケレトモ通常ノ場合ニ於テハ皆假名ニテ寫スナ可トス

○音便ノ事

音便トハ口調ニ依リ正音ノ轉シテ他音ト成リタルモノニシテ其種類ハ大概左ノ如シ

第一 キノ音ヨリ流レテイトナレルモノ

衝立	衝立	朔	朔
築牆	築牆	刃	刃
多キ	多イ	善キ	善イ
抱キテ	抱イテ	叩キテ	叩イテ
就キテ	就イテ		

此等ノ詞ハ其名詞ナルモノハ通常其音便ノ儘ニ傍假字ヲ寫スト雖モ其他ハ概ネ皆正則ナル變化ニ從ヒテ之ヲ寫スヲ可トス尤モ純然タル和文物語文體ニ於テハ音便ノ儘ニテ之ヲ寫スモ妨ナシ

第二 クノ音ヨリ流レテウトナリタルモノ

長クシテ	長ウシテ	同シクシテ	同ウシテ
重クシテ	重ウシテ	宜シクシテ	宜ウシテ

此等モ純然タル和文ノ外ハ正法ニ從ヒテ寫スヲ可トス

第三 ナヲ轉シテツト呼フモノ

立ナテ	立ツテ	持ナテ	持ツテ
斷ナテ	斷ツテ	討ナテ	討ツテ
放ナテ	放ツテ	勝ナテ	勝ツテ

第四 リヲ轉シテツト呼フモノ

限リテ	限ツテ	依リテ	依ツテ
取リテ	取ツテ	來リテ	來ツテ
語リテ	語ツテ	覺リテ	覺ツテ
飾リテ	飾ツテ	僞リテ	僞ツテ

第五 ヒヲツニ轉シテ呼フモノ

第八	飛 <sup>ヒ</sup> ビ <sup>テ</sup>	病 <sup>ヤ</sup> ミ <sup>テ</sup>	嚙 <sup>カ</sup> ミ <sup>テ</sup>	涙 <sup>ナ</sup> ミ <sup>テ</sup>	言 <sup>イ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	沿 <sup>ソ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	思 <sup>オ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	窺 <sup>ウ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	奮 <sup>フ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	戰 <sup>タ</sup> ヒ <sup>テ</sup>
	ニ									
	轉									
	シ									
	テ									
	呼									
	フ									
	モ									
	ノ									
	ア									
	リ									
	浮 <sup>ウ</sup> ビ <sup>テ</sup>	飲 <sup>ノ</sup> ミ <sup>テ</sup>	汲 <sup>ク</sup> ミ <sup>テ</sup>	弓 <sup>ユ</sup> 手 <sup>テ</sup>	救 <sup>ス</sup> ヒ <sup>テ</sup>	舞 <sup>マ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	違 <sup>タ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	歌 <sup>ウ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	言 <sup>イ</sup> ヒ <sup>テ</sup>	從 <sup>シ</sup> ヒ <sup>テ</sup>
	ニ									
	轉									
	シ									
	テ									
	呼									
	フ									
	モ									
	ノ									
	ア									
	リ									

第九	盛 <sup>サ</sup> ナ <sup>リ</sup>	盛 <sup>サ</sup> ナ <sup>リ</sup>	盛 <sup>サ</sup> ナ <sup>リ</sup>	件 <sup>ケン</sup>	去 <sup>サ</sup> リ <sup>ヌ</sup>	畢 <sup>ヘ</sup> リ <sup>ヌ</sup>	去 <sup>サ</sup> リ <sup>ヌ</sup>	畢 <sup>ヘ</sup> リ <sup>ヌ</sup>
	ニ							
	轉							
	シ							
	テ							
	呼							
	フ							
	モ							
	ノ							
	ア							
	リ							
	流 <sup>リ</sup> レ <sup>テ</sup>	重 <sup>オ</sup> ク <sup>ス</sup>	重 <sup>オ</sup> ク <sup>ス</sup>	重 <sup>オ</sup> ク <sup>ス</sup>	軽 <sup>カ</sup> ク <sup>ス</sup>	軽 <sup>カ</sup> ク <sup>ス</sup>	軽 <sup>カ</sup> ク <sup>ス</sup>	軽 <sup>カ</sup> ク <sup>ス</sup>
	テ							
	ウ							
	ト							
	ナ							
	リ							
	更							
	ニ							
	轉							
	シ							
	テ							
	呼							
	フ							
	モ							
	ノ							
	ア							
	リ							

右十ノ音便ノ内名詞ヲ成セルモノハ大抵平常文ニモ其儘ニ傍假字ヲ附シテ妨ナシト雖モ其餘ノ詞ニ至リテハ讀癖ニ任セテ音便ノ儘ニ讀ムハ別ニ仔細ナシ然レトモ明ニ辭ヲ綴リ文ヲ作ルニ方リテハ須ラク正法ノ變化ニ從ヒテ之カ送假字ヲ寫スヲ可トス

○略字及濁音字ノ事

古來慣用ノ トモ トキ ユト ナリ ト寫ス ン ㇿ キ ㇿ 等ノ略字ハ總テ之ヲ用ヒス シテ

又濁音字ニハ固有名詞ノ外濁音符ヲ附セス其例左ノ如シ

誰 <small>タレ</small> カタメ	出 <small>イ</small> ツ	過 <small>ス</small> ク	論 <small>リン</small> ス	得 <small>エ</small> ス
幾 <small>キ</small> ト	何 <small>ナニ</small> ソ	未 <small>イ</small> タ	必 <small>カナラ</small> ス	甚 <small>ハナハ</small> タ
先 <small>マ</small> ツ	再 <small>マタ</small> ヒ	然 <small>シカ</small> レトモ		
アラサルヘカラス				

但シ必要ノ場合ニハ濁音ヲ附シテ之ヲ別ツコトアルヘシ

送假名法尾

送假名法ノ應用

凡ソ事物ノ原則ヲ知了スルモ之ヲ實際ニ應用スルニ方リテハ十分ノ用心ヲ爲シ幾多ノ經驗ヲ積ムニアラサレハ時ニ誤用ニ陥ルコトナキヲ保シ難シ是ヲ以テ本書ニ於テハ讀者ヲシテ成ルヘク十分ニ送假名法ノ實用ヲ辨知セシメ原則ノ運用上迷誤差謬ヲカラシメンカタメ左ニ少シク和漢ノ文章及詩歌ヲ採録シ以テ送假名法ノ應用如何ヲ示ス

第一 歌

(一) なつはつる、あふきと、あきのしらつゆと、いつれかさきに、おかんとすらん  
之ヲ眞假兩字ノ混合體ニテ寫ストキハ正ニ左ノ如シ  
夏終なつしゆうつる扇あふぎと秋あきの白露しらつゆと孰いつれか先まづに置おかんとすらん

〔分解〕

(イ) なつ。(ハ) あほぎ。(ニ) あきの三詞ハ共ニ本然名詞中ノ普通名詞

ナリ故ニ第一則(本然名詞ハ總テ送假名ヲ附セス)ニ從ヒ眞字ノミニ  
 テ夏<sup>ナツ</sup>扇<sup>アビ</sup>秋<sup>アキ</sup>ト寫ス○(ホ)しらづゆハ第二種合成名詞ナリ故ニ第三則  
 (合成名詞ハ通常送假名ヲ附セス但シ同字異義ナルモノハ便宜送假  
 名ヲ附ス)ニ從ヒ白露<sup>シラツユ</sup>ト寫ス○(へ)いづれハ疑問代名詞ナリ故ニ第四  
 則(人代名詞、指示代名詞、及、疑問代名詞ハ孰モ送假名ヲ附セス)ニ從  
 ヒ孰<sup>イッレ</sup>ト寫ス○(ロ)はづるハ下二段活動詞ノ連名言ニシテ(ナ)おかんハ  
 本然四段活動詞ノ將然言ナリ故ニ第十則(本然動詞ハ總テ其語尾ノ  
 變化スル所ヨリ寫シテ送假名トス但シ同字異様ノ訓義アルモノニシ  
 テ其語尾同一ナルトキハ便宜一字ヲ増附シテ送假名トス)ニ從ヒ終  
 つる、置かんト寫ス○(ト)ささげハ第一種轉成副詞ナリ故ニ第十四則  
 (轉成副詞ハ其語尾ノニ、ク、シク、ケク、テ又ハトヲ寫シテ送假名トス)  
 ニ從ヒ先<sup>サキ</sup>にト寫ス  
 (二)おもひにはおほそらさへやもわわたるあさたつくもをけふりにはして

之ヲ混合體ニ寫改ムレハ即チ左ノ如シ  
(イ)おもひ (ロ)おほそら (ニ)おわた (ホ)あさ (ト)つくも (チ)けふり  
 思<sup>イ</sup>には大空<sup>ロ</sup>さへや燃渡<sup>ニ</sup>る朝立<sup>ホ</sup>つ雲<sup>ト</sup>を煙<sup>チ</sup>にはして  
 [分解]

(イ)おもひにははおもひハ第二種轉成名詞即チ動詞ノ名詞ニ轉成セ  
 ルモノナリ故ニ第二則甲(動詞ノ轉成名詞ハ通常送假名ヲ附セス但  
 シ同字異義ナルモノハ便宜送假名ヲ附ス)ニ從ヒ思<sup>おもひ</sup>ト寫ス○(ロ)おほ  
 そらハ第二種合成名詞ナリ故ニ第二則(原則ノ全文ハ前ニ出セリ仍  
 テ之ヲ畧ス以下之ニ倣フ)ニ從ヒ大空<sup>おほそら</sup>ト寫ス○(ホ)えわたるハ合成動  
 詞ナルカ故ニ第十二則(合成動詞ハ總テ下ニ連リタル詞ノ語尾ノ變化  
 スル所ヨリ寫シテ送假名トス)ニ從ヒ其下ニ連レルわたるハ四段活  
 終止言ナルヲ以テ燃渡<sup>もわた</sup>るト寫ス○(た)つハ本然四段活用動詞ノ連名言  
 ナリ故ニ第十則ニ從ヒ立<sup>た</sup>つト寫ス○(ホ)あさ(ト)つくも(チ)けふりハ本  
 然普通名詞ナリ故ニ第一則ニ從ヒ朝<sup>あさ</sup>雲<sup>くも</sup>煙<sup>け</sup>ト寫ス○(さ)へハ兩屬後置

詞ナリ故ニ第二十一則(後置詞ハ元來其性質送假名ニ類スルモノナルカ故ニ三種共ニ總テ假名ニテ之ヲ寫シ別ニ送假名ヲ附セス

(三)よのなかの、うきたひこと、みをなけは、ふかきたにこそあさくなりなめ

之ヲ眞假兩字ノ混合體ニテ寫セハ左ノ如シ

世の中の憂き度毎に身を歎けは深き谷こそ淺く成りなめ

〔分解〕

(イ)よ。(ロ)なか。(ホ)み。(チ)たに共ニ本然普通名詞ナリ故ニ第一則ニ從セ世、中、身、谷ト寫ス○(ハ)うき(ト)ふかきハ共ニ第一種本然形容語尾ヲ履ム形容詞ナリ故ニ第五則(本然形容語尾ヲ履ムモノハ其語尾ヲ寫シテ送假名トス)ニ從ヒ憂き、深きト寫ス○(ニ)たひことハ合成副詞ナリ故ニ第十五則(合成副詞ハ合成セル品詞ノ本來所屬ノ法ニ從ヒ送假名ヲ附ス)ニ從ヒ度毎にト寫ス○(リ)あさくハ第二種轉成副詞ナルカ故ニ第十四則ニ從ヒ淺くト寫ス○(へ)なけ(ヌ)かりハ共ニ本然四

段活動詞ナルカ故ニ第十則ニ從ヒ歎け、成りト寫ス

(四)やよやまで、やまほと、ます、ことつてん、われよのなかにすみわひぬとよ

即チ假名交リ體ニテ寫セハ左ノ如シ

やよや待て、山郭公言傳てん、我世の中に住佗ひぬとよ

〔分解〕

(イ)や。よ。や。ハ咏嘆詞ナリ故ニ第二十三則(假名ニテ寫ス咏嘆詞ハ別ニ送假名ヲ附セス)ニ從ヒ假名ニテ之ヲ寫ス○(ロ)までハ本然四段活動詞ノ使令言ナリ故ニ第十則ニ從ヒ待てト寫ス○(ハ)やまほと、ますハ第一種合成名詞ナリ故ニ第三則ニ從ヒ山郭公ト寫ス○(ニ)ことつてん(へ)すみわひぬ共ニ合成動詞ナリ故ニ第十二則ニ從ヒ言傳てん、住佗ひぬト寫ス○(ホ)われハ眞稱人代名詞ナリ故ニ第四則ニ從ヒ我ト寫ス

(五)あふことのためしてなくはなかなかにひとをのみをもうらみさらまし



即チ

逢ふ事の絶てしなくは中々に人を身をも恨みさらまし

〔分解〕

(イ)た。え。て。ハ動詞轉成副詞ナリ故ニ第十四則ニ從ヒ絶てト寫ス○(ロ) な。か。な。か。に。ハ疊字副詞ニシテニテ履ムモノナルカ故ニ第十四則及第十七則(疊字副詞ハ疊音ノモノハ々符ヲ附シ疊訓ノモノハ々符ヲ附ス)ニ從ニ中々にト寫ス

又左ノ數首ノ寫法ニ就キテ尙ホ一層送假名法ノ應用ヲ知レ

- (六)春日野の飛火の野守出て、見よ今幾日ありて若菜摘みてん
- (七)春や早き花や遅きと聞分かむ鶯たにも啼かすもあるかな
- (八)雪降りて年の暮れぬる時にこそ終に紅葉ちぬ松も見えけれ
- (九)女郎花匂へる秋の武藏野は常よりも猶ほ睦しきかな
- (十)白露も夢も此世も幻も譬へて言は、久しかりけり

## 第二 和文

左ニ和文二三ヲ抄出シ本書所定ノ原則ニ從ヒテ之ヲ寫シ以テ送假名法應用ノ一助トス

### (一)大鏡卷五 藤原兼通、藤原兼家ノ關係

此殿達家ナリノ兄弟の御中、年頃の職位の劣、優の程に、御中悪しくて。過ぎさせ給ひし間に、堀川殿通の御病重く成らせ給ひて。今は限にて御座し、程に東の方に先を驅ふ音のすれば、御前に候ふ人達、誰そなど云ふ程に、東三條大將殿家參らせ給ふと人の申しければ、殿通聞かせ給ひて、年頃中ひ善からずして過ぎつるに。今は限に成りたりと聞きて、訪に御座するにこそはとて、前御なる苦しき物取遣り、大殿籠りたる所、引繕ひなどして、入れ奉らんとて待ち給ふに、早く過ぎて内内へ參らせ給ひぬ。と人の申すに、最と淺ましく心憂くて、御前に候ふ人も、嗚呼かましく思ふらん。御座した

らは。關白くわんぱくなど讓ゆるふることなど申さんとこそ思ひつるに。斯しかかれはこそ年頃としころ中なかつひ善よからて過ぎつれ。淺あはましく安やすからぬ事なりとて。限かぎの様にて臥ふし給へる人ひと通とほの昇か起こせと曰いわへは。人ひとと怪あやしと思ふ程に。車くるまに裝束まうそくせよ。御前おまへ催もよほせと仰おほせらるれば。物ものの附つかせ給へるか。現心うつしこころもなく仰おほせらるるか。と怪あやしく見奉る程に。御冠おんかん召寄めしよせて裝束まうそくなどせさせ給ひて。内うちへ參らせ給ひて陣じんの内うちは公達きんだちに凭かりて瀧口たきぐちの陣じんの方かたより御前おまへへ參らせ給ひて。昆明池くわんめいぢの障子さうじの許もとに差出さしてさせ給へるに。晝ひるの御座おまに東三條大將家とうさんじょうだいしやうけ御前おまへに候まをひ給ふ程なりけり。此大將殿このだいしやうだんは堀川殿ほりがわだん通とほ既すでに薨なせ給ひぬと聞かせ給ひて。内廷うちてい朝あさに關白くわんぱくの事申さんと思ひ給ひて。此殿このだんの門かどを通とほりて。參りて申し奉る程に。堀川殿ほりがわだんの。眼まなこを吊つかに差出さして給へるに。御門みかど天皇てんかうも。大將家だいしやうけも。最いと淺あはましく思召おもひめしす。大將だいしやうは打見うちみる儘ままに。立ちて鬼おにの間まの方に御座おましぬ。關白殿くわんぱくだん通とほ御前おまへに待まちひ給ひて。御氣色おんいきしき最いと悪わるしく。最後さいごの除目行ぞくめぎやうひに參り給へるなりとて。藏人頭ざうにんかぶ召めして。關白くわんぱくには。賴忠よりたけの大臣おとぎ。東三條殿大臣とうさんじょうだんおとぎを禰ねりて。小一條せういちじょうの濟時すけときの中納

言ことを大將だいしやうに爲なし聞きゆる宣旨のたまひ下くだして。東三條殿とうさんじょうだんを。治部卿ちぶけいに爲なし聞きえて。出いてさせ給ひて。程ほどなく薨なせ給ひしを。か。心意地こころみぢにて御座おませし殿だんにて。然許しかばかり限かぎに御座おませしに。妬ねたさに内うちに參りて申させ給ひし程。他人たにん。總すべてもなかりしことそかし。然しかれは東三條殿とうさんじょうだん職禰つかり給ふことも。強ひたるに堀川殿ほりがわだんの。非常ひじょうの御心おんこころにも侍まじらす事の故ゆゑは斯しかくなり

(二) 土佐日記

或ある人ひと縣あがたの四年よんねん、五年終ごねんすまはて、例れいの事ことども。皆みな爲終まへて。解由げゆなど取りて。住すむ館たねより出いて、舟ふねに乗のるへき所ところへ渡わたる

此こゝ、彼かれ、知しる知しらぬ送おくりす。年頃としころ善よく具ぐしつる人ひとと。なん別わかれ難かたく思おもひて。頻しきりに兎角とかくしつゝ、罵ののる々々中うちに夜更よよめけぬ

二十二日。和泉わいせんの國くにまで平たいに願ねがひ發たつ。藤原言實とうげんごんじつ舟路ふねぢなれと馬うまの餞はなみけす上かみ、中なかつ、下しも醉まひ過すきて最いと怪あやしく潮海しほみの邊へだちにて饑あれ合あへり

二十三日。山木やまぎの康教かうかうといふ人ひとあり。此人このひと國くにに必かならずし。も言いひ仕つかふ者ものにもあ

らす。是を正しき様にて馬の餞したる。守柄にやあらん。國人の心の常とし  
て。今はとて見えぬなるを。心ある者は耻ぢすになん來ける。是は物に従り  
て褒むるにしもあらず

二十四日、講師馬の餞しに來ませり。ありどある上下僕童まで。醉痴れて一  
文字をたに知らぬ者しか。足は十文字に踏みてぞ遊ぶ

(三) 徒然草

今日は其事を爲さんと思へど。あらぬ急き先つ出來て紛れ暮らし。待つ人  
は障ありて。頼めぬ人は來り。頼みたる方の事は違ひて。思寄らぬ道許は叶  
ひぬ。煩はしかりつる事は。事なくて。安かるへき事は。最と心苦し。日々に  
過行く様。豫て思ひつるには似す。一年のうちも斯の如し。一生の間も亦然  
なり。豫ての大概皆違ひ行くかと思ふに。自ら違はぬ事もあれば。愈々物は  
定め難し。不定と心得えぬるのみ。實にて違はず。

又

喩へは或る人の。世に虚言を構出して。人を謀ることあらんに。直に眞と思  
ひて言ふ儘に謀らるゝ人あり。餘に深く信を起して。尙ほ煩はしく虚言を  
心得添ふる人あり。又何としも思はて心を附けぬ人あり。又聊か覺束なく  
覺えて頼むにもあらず頼ますもあらて。案し居たる人あり。又眞しくは覺  
えねども。人の言ふ事なれば然もあらんとて。止みぬる人もあり。又様々に  
推し心得たる由して。賢けに打領き微笑みて居たれど。一切知らぬ人あり。  
又推し出して。あはれ然るめりと思ひながら。尙ほ誤もこそあれど。怪しむ  
人あり。又異なる様もなかりけりと手を拍ちて笑ふ人あり。又心得たれど  
も知れりとも言はず。覺束なからぬは兎角の事なく。知らぬ人と同じ様に  
て過くる人あり。又此虚言の本意を始より心得て少しも欺かす構出した  
る人と同じ心になりて。力を合する人あり。愚者の中の戯たに知りたる人  
の前にては。此様との得たる所。詞にても。顔にても。隠なく知られぬへし。  
況て明かならん人の惑へる我等を見んこと。掌の上の物を見んか如し

第三 詩

(一) 盧溪別人 王昌齡

武陵溪口駐扁舟、溪水隨君向北流、行到荆門上三峽、莫將孤月對猿愁

武陵ノ溪口扁舟ヲ駐ム 溪水君ニ隨ヒテ北ニ向ヒテ流ル 行キテ荆門

ニ到リテ三峽ニ上ラハ 孤月ヲ將テ猿愁ニ對スルコトナカレ

(二) 客中守歲 白居易

守歲樽無酒、思鄉淚滿巾、始知爲客苦、不及在家貧、畏老偏驚節、防愁預惡春、

故園今夜裏、應念未歸人

歲ヲ守リテ樽ニ酒ナク 郷ヲ思ヒテ淚巾ニ滿ツ 始テ知ル客ト爲ルノ

苦シサ 家ニ在リテ貧シキニ及カサルコトヲ 老ヲ畏レテハ偏ニ節ニ

驚キ愁ヲ防カントシテ預シテ春ヲ惡ム 故園今夜ノ裏 應ニ未タ歸ラサ

ルノ人ヲ念フナルヘシ

(三) 把酒問月 李白

青天有月來幾時、今我停杯一問之、人攀明月不可得、月行却與人相隨、皎如飛  
鏡臨丹闕、綠煙滅盡清輝發、但見宵從海上來、寧知曉向雲間沒、白兔搗藥秋復  
春、嫦娥孤棲與誰隣、今人不見古時月、今月曾經照古人、古人今人若流水、共  
看明月皆如此、惟願當歌對酒時、月光長照金樽裏

青天月アリテヨリ幾ク時ソ 今我杯ヲ停メテ一タヒ之ヲ問フ 人ハ明

月ヲ攀ナントシテ得ヘカラサルニ 月ハ行キテ却テ人ト相隨ヘリ 皎

トシテ飛鏡ノ如クニシテ丹闕ニ臨メハ 綠煙滅エ盡キテ清輝發ス 但

宵ニ海上ヨリ來レルヲ見ル 寧ロ曉ニ雲間ニ向ヒテ沒センコトヲ知ラ

ンヤ 白兔藥ヲ搗クコト秋復春 嫦娥孤リ棲ミテ誰ト隣レル 今ノ人

ハ古時ノ月ヲ見サルモ 今ノ月ハ曾テ古人ヲ照スコトヲ經 古ノ人モ

今ノ人モ流水ノ若シ 共ニ明月ヲ看テ皆此ノ如クナラン 惟願ハクハ

當ニ歌ヒテ酒ニ對スル時 月光長ヘニ金樽ノ裏ヲ照サンコトヲ

第四 漢文

(一) 孟子梁專王章句上

梁惠王曰。寡人之於國也。盡心焉耳矣。河內凶則移其民於河東。移其粟於河內。河東凶亦然。察鄰國之政。無如寡人之用心者。鄰國之民不加少。寡人之民不加多何也。

孟子對曰。王好戰。請以戰喻。填然鼓之。兵刃既接。棄甲曳兵而走。或百步而後止。或五十步而後止。以五十步笑百步則何如。曰不可。直不百步耳。是亦步也。曰王如知此則無望民之多隣國也。不違農時。穀不可勝食也。數罟不入洿池。魚鼈不可勝食也。斧斤以時入山林。材木不可勝用也。穀與魚鼈不可勝食。材木不可勝用。是使民養生喪死無憾也。養生喪死無憾王道之始也。五畝之宅。樹之以桑。五十者可以衣帛矣。雞豚狗彘之畜。無失其時。七十者可以食肉矣。百畝之田。勿奪其時。數口之家可以無飢矣。謹庠序之教。申之以孝悌之義。頒白者不

負戴於道路矣。七十者衣帛食肉。黎民不飢不寒。然而不王者未之有也。狗彘食人食而不知檢。塗有餓殍而不知發。人死則曰非我也。歲也。是何異於刺人而殺之曰非我也。兵也。王無罪歲斯天下之民至焉。

右ヲ真假兩字ノ混合體ニ寫セハ即チ左ノ如シ

梁ノ惠王曰ク。寡人ノ國ニ於ケルヤ心ヲ盡スノミナリ。隣國ノ政ヲ察ルニ。寡人ノ心ヲ用フルカ如クナル者ナキニ。隣國ノ民少キヲ加ヘス。寡人ノ民多キヲ加ヘサルハ何ソヤ。

孟子對ヘテ曰ク。王戰ヲ好ムト。請フ戰ヲ以テ喻ヘン。填然トシテ之ニ鼓チ。兵刃既ニ接ハルヤ。甲ヲ棄テ兵ヲ曳キテ走り。或ハ百步ニシテ後ニ止リ。或ハ五十步ニシテ後ニ止レリトセンニ。五十步ヲ以テ百步ヲ笑ハ、則チ如何。曰ク不可ナリ。直百步ナラサルノミ。是モ亦走レルナリ。曰ク王如シ此ヲ知ラハ。則チ民ノ隣國ヨリ多カラシコトヲ望ムコトナカレ。農ノ時ニ違ハスハ。穀勝ケテ食フヘカラス。數罟洿池ニ入ラスハ魚鼈勝ケテ食フヘ

カラス。斧斤時ヲ以テ山林ニ入ラハ。材木勝ケテ用フヘカラス。穀ト魚鼈ト勝ケテ食フヘカラス。材木勝ケテ用フヘカラスハ。是レ民ヲシテ生ヲ養ヒ死ニ喪シテ憾ナカラシムルナリ。生ヲ養ヒ死ニ喪シテ憾ナキハ。王道ノ始ナリ。五畝ノ宅。之ニ樹ウルニ桑ヲ以テセハ。五十ノ者以テ帛ヲ衣ルヘキナリ。鶏豚狗彘ノ畜。其時ヲ失フコトナクハ。七十ノ者以テ肉ヲ食フヘキナリ。百畝ノ田。其時ヲ奪フコトナクハ。數口ノ家以テ飢ウルナカルヘキナリ。庠序ノ教ヲ謹ミテ。之ニ申ヌルニ孝悌ノ義ヲ以テセハ。頽白ノ者道路ニ負載セサルナリ。七十ノ者帛ヲ衣肉ヲ食ヒ。黎民飢エス寒エス。然シテ王タラサル者ハ未タ之アラサルナリ。狗彘人ノ食ヲ食ヒ。而シテ檢スルヲ知ラス。塗ニ餓孳アリ。而シテ發クヲ知ラス。人死セハ則チ曰ク。我ニアラス歳ナリト。是レ何ソ人ヲ刺シテ之ヲ殺シナカラ。我ニアラス兵ナリト曰フニ異ナランヤ。王歳ヲ罪スルコトナクハ斯ニ天下ノ民至ラン。

(二) 送温處士赴河陽軍序

韓昌黎

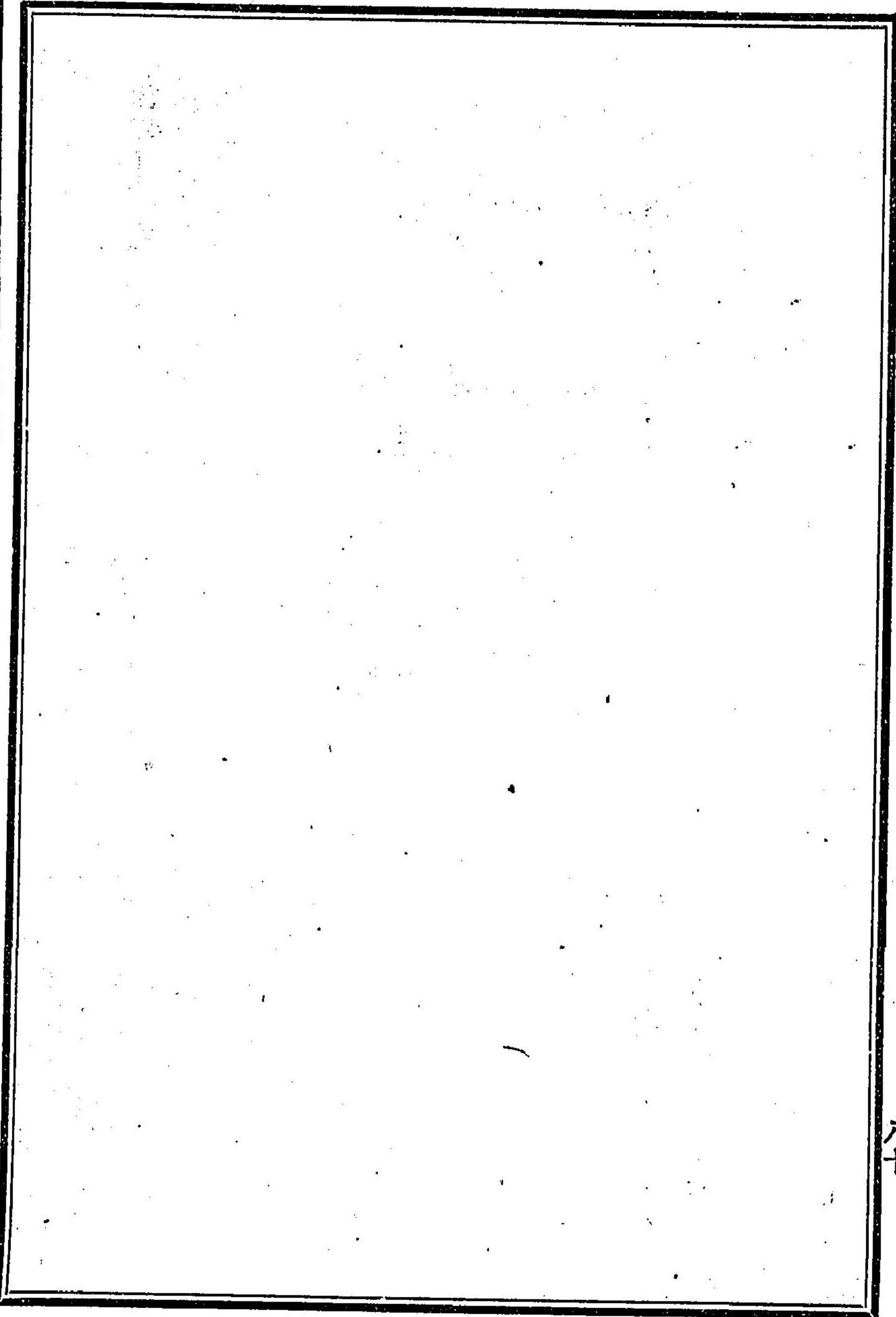
伯樂一過冀北之野。而馬群遂空。夫冀北馬多於天下。伯樂雖善知馬。安能空其群耶。解之者曰。吾所謂空非無馬也。無良馬也。伯樂知馬。遇其良輒取之。羣無留良焉。苟無良。雖謂無馬。不爲虛語矣。東都固士大夫之冀北也。恃才能深藏而不市者。洛之北涯曰石生。其南涯曰温生。大夫烏公以鈇鉞鎮河陽之二月。以石生爲才。以禮爲羅。羅而致之幕下。未數月也。以温生爲才。於是以石生爲媒。以禮爲羅。又羅而致之幕下。東都雖信多才士。朝取一人焉。拔其尤。暮取一人焉。拔其尤。自居守河南尹。以及百司之執事。與吾輩二縣之大夫。政有所不通。事有所可疑。奚所諮而處焉。士大夫之去位而巷處者。誰與嬉遊。小子後生。於何考德而問業焉。縉紳之東西行過是都者。無所禮於其廬。若是而稱曰大夫烏公一鎮河陽而東都處士之廬無人焉。豈不可也。

温處士ノ河陽軍ニ赴クヲ送ルノ序

伯樂一タヒ冀北ノ野ヲ過キ。而シテ馬群遂ニ空シ。夫レ冀北ノ馬ハ天下ニ多シ。伯樂善ク馬ヲ知ルト雖モ。安ソ能ク其群ヲ空シクセン。之ヲ解スル者

曰ク。吾所謂空シトハ。馬ナシト云フニアラス。良キ馬ナシトナリト。伯樂馬  
 ナ知ル。其良キモノニ遇ヘハ輒々之ヲ取りテ。群ニ良キモノヲ留ムルコト  
 ナシ。苟モ良キモノナクハ。馬ナシト謂フト雖モ。虚語ト爲サ、ルナリ。東都  
 ハ固ト士大夫ノ冀北ナリ。才能ヲ恃ミ深ク藏メテ市ラサル者。洛ノ北涯ナ  
 ルヲ石生ト曰ヒ。其南涯ナルヲ温生ト曰フ。大夫烏公。鉄鉞ヲ以テ河陽ニ鎮  
 タルコト三月。石生ヲ以テオトシ。禮ヲ以テ羅トシ。羅シテ之ヲ幕下ニ致セ  
 リ。未タ數月ナラサルニ。温生ヲ以テオトス。是ニ於テ石生ヲ以テ媒トシ。禮  
 ナ以テ羅トシ。又羅シテ之ヲ幕下ニ致セリ。東都信ニ才士多シト雖モ。朝ニ  
 一人ヲ取りテ其尤ナルモノヲ拔キ。暮ニ一人ヲ取りテ其尤ナルモノヲ拔  
 クヤ。居守河南尹ヨリシテ百司ノ執事ト吾輩ニ縣ノ大夫トニ及フマテ。政  
 通セサル所アリ。事疑フハキ所アルモ。奚ノ所ニカ諮ヒ而シテ之ヲ處セン。  
 士大夫ノ位ヲ去リテ巷處スル者誰ト與ニカ嬉遊セン。小子後生。何ニ於テ  
 カ德ヲ考ヘ業ヲ問ハン。縉紳ノ東西シテ是都ヲ行過スル者。其廬ニ禮スル

所ナカラシ。是ノ若クニシテ稱シテ大夫烏公ノ一タヒ河陽ニ鎮タルヤ。東  
 都處士ノ廬ニ人ナシト曰フモ。豈ニ不可ナランヤ。



明治二十七年五月三十日印刷  
明治二十七年五月三十一日發行

定價金貳拾五錢

# 內閣官報局

印刷者兼

八尾新助

東京市神田區錦町三丁目八番地

發賣所

八尾書店

東京市神田區表神保町一丁目

取次發賣所

小林長太郎

東京市神田區淡路町二丁目





# 八尾書店出版及專賣書目

內閣官報局御發行

## 官報

日刊

無遞送料  
一月前金五拾錢

右ハ東京府下ニ限リ販賣取次仕候●壹部賣ハ小口一枚金三厘ニ御座候

## 官報附錄帝國議會事速記録

帝國議會開會中發刊

右ハ貴族院衆議院ノ二種有之代價ハ官報全概小口一枚金三厘ニシテ枚數ハ日々増減御座候故一定不致候尤モ官報御購買ノ方ハ附錄トシテ配送相成候

內閣官報局御編纂

## 職員錄

乙甲二卷

定價金四拾貳錢  
郵税金拾六錢

內閣官報局御編纂

## 法令全書

每月一冊發刊

定價金拾錢  
郵税金六錢

○元年分

前製金六十五錢  
上製金八十五錢

○三年分

前製金六十五錢  
上製金八十五錢

○二年分

前製金六十五錢  
上製金八十五錢

○四年分

前製金八十五錢  
上製金一圓〇六錢

○五年分 前製金一圓二十錢  
 ○六年分 前製金一圓四十五錢  
 ○七分分 前製金一圓三十五錢  
 ○八分分 前製金一圓六十五錢  
 ○九分分 前製金一圓九十五錢  
 ○十年分 前製金一圓六十五錢  
 ○十一年分 前製金一圓九十五錢  
 ○十二年分 前製金一圓七十五錢  
 ○十三年分 前製金一圓七十五錢  
 ○十四年分 前製金一圓七十五錢  
 ○十五年分 前製金一圓七十五錢

上製金一圓二十錢  
 上製金一圓四十五錢  
 上製金一圓三十五錢  
 上製金一圓六十五錢  
 上製金一圓九十五錢  
 上製金一圓六十五錢  
 上製金一圓九十五錢  
 上製金一圓七十五錢  
 上製金一圓七十五錢  
 上製金一圓七十五錢

○十六年分 前製金一圓二十五錢  
 ○十七年分 前製金一圓二十五錢  
 ○十八年分 前製金一圓二十五錢  
 ○十九年分 前製金一圓二十五錢  
 ○二十年分 前製金一圓二十五錢  
 ○廿一年分 前製金一圓二十五錢  
 ○廿二年分 前製金一圓二十五錢  
 ○廿三年分 前製金一圓二十五錢  
 ○廿四年分 前製金一圓二十五錢  
 ○廿五年分 前製金一圓二十五錢

上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢  
 上製金一圓二十五錢

以上自元年至廿四年定價合計 前製金三十圓七十一錢 運送費八實費申受候

●法令全書索引目錄

自慶應元年全二冊  
 至明治十七年

正價金一圓五十錢  
 外三運費實費申受候

●全索引目錄

每年一冊發行

一冊定價金六十錢  
 郵稅凡金六錢

●全號外

民事訴訟法

定價金貳拾五錢  
 郵稅金三錢

●全號外

商法

定價金十錢  
 郵稅金一錢

●全號外

刑罰民法部  
 刑事訴訟法

定價金七錢五厘  
 郵稅金一錢五厘

右法令全書ハ維新以來發布ニ係ル勅令、閣令、省令、訓令、達旨、指示、法部局裁定ハ勿論陸軍省令乙號等官報ニ掲載セサル者モ亦之ヲ纂譯シ而シテ改竊加除アルモノハ上層ニ標記シテ其沿革ヲ知ルニ便ナラシメ又索引ハ數年分ヲ合セテ別冊ト爲シ之ヲ刊行シ法律規則ノ大成ヲ期セラル、モノナリ廿六年一月以降ノ分ハ一冊金十錢郵稅凡六錢ノ制ニテ金御送付被下度候

●町村長必携

全一冊

正價金壹拾錢  
 郵稅金拾錢

●會計法規類纂

全一冊

實價金壹圓五十錢  
 外三運送實費申受候

●法規提要

全三冊版

實價金二拾錢  
 運送費凡金三錢

●西伯利地誌

全二冊

正價金二圓五十錢  
 郵稅金四錢

●東亞各港誌

全一冊

正價金八錢  
 郵稅金八錢

參謀本部御禮版

三

●日本戰史

●支那地誌

●各國兵事摘要

●文日本裁判所構成法

●文日本商法

●文日本民法

●文日本刑事訴訟法

●大審院判決錄

●修身帝國憲法要領

全四册

全一册

每月二回一册

全一册

全一册

全一册

全一册

全一册

全一册

定價 金壹圓七拾錢

定價 金六十五

定價 金四拾

定價 金四拾五

定價 金七拾

定價 金六拾五

定價 金三拾三

定價 金八拾

定價 金六拾

●日本戰史

●支那地誌

●各國兵事摘要

●文日本裁判所構成法

●文日本商法

●文日本民法

●文日本刑事訴訟法

●大審院判決錄

●修身帝國憲法要領

●日本憲法正解

●民法正義

●商法正義

●民事訴訟法正義

●改訂商事會社法正義

●改訂手形法正義

●改訂破產法正義

●刑法正義

●日本賣買法

全一册

存皮合本全九册  
紙數凡八千頁

存皮合本全五册  
紙數凡三千五百頁

存皮合本全三册  
紙數凡二千六百頁

存皮全一册  
紙數凡七百頁

存皮全一册  
紙數凡三百二十頁

存皮全一册  
紙數三百九十頁

全二册

全一册

定價 金六拾

定價 金七圓九拾

定價 金五

定價 金一圓九拾

定價 金八十五

定價 金八十

定價 金三圓五拾

定價 金三拾六

定價 金一圓四十

定價 金十

定價 金十

佛國法律大博士ガアソナリノ先生編定●本野一郎先生●森野正先生 合著  
日本佛國法學博士吉井政孝先生校閱●寺尾幸先生●城野馬先生

●日本民法義解 全十五册 內十册出來

日本佛國法學博士梅謙次郎先生日本佛國法學博士本野一郎先生合著

●日本商法義解 全二十册 內六册出來 一册正價金三十錢

前大審院判事日本佛國法學博士岸本辰雄先生著

●商事會社法要義 全一册 正價金五拾錢

●手形法要義 全一册 郵稅金六拾錢

●商事會社法正解 全一册 郵稅金七拾錢

●手形法正解 全一册 郵稅金八拾錢

●破產法正解 全一册 郵稅金九拾錢

●商業登記簿正解 全一册 郵稅金六拾錢

佛國士林會次郎先生著

●改訂手形法正解 全一册 郵稅金四拾五錢

正價第一册金一圓三十錢●第二册金一圓●第三册以下一册各金七十錢

內六册出來 一册正價金三十錢

正價金五拾錢

正價金六拾錢

正價金七拾錢

正價金八拾錢

正價金九拾錢

正價金六拾錢

正價金四拾五錢

法學士水野鍊太郎先生著

正價金五拾五錢

控訴院判事深野達先生著

●破產法網要 全一册

正價金一圓二十錢

大審院判事高木豐三先生著

●民事訴訟法講義 增訂第三版 全一册

●民事訴訟法實習 全一册

●民事訴訟法對比 全一册

前大審院判事日本佛國法學博士藤部四郎先生著

●日本刑法講義 全二册

特別認可明治法律學校參考用書

●日本刑法博議 全三册(近刊)

法學士江木東先生著

●現行刑法原論 全三册

法學博士井上正一先生著

●訂日本刑法講義 全一册

前大審院判事法學士藤部四郎先生著

●刑訴法講義 全二册

正價金拾六錢

正價金壹圓貳拾五錢

特價金貳圓四錢

正價金拾壹錢

正價金貳圓五拾錢

定價金四十五錢

定價金壹圓貳拾錢

正價金一圓二十錢

法學博士井上正一先生著

●訂刑事訴訟法義解

法律學士寺尾亨先生著

●刑事訴訟法講義

●東京七法法律學校試驗問題全集  
及判檢事編隨士等試驗規則  
附現行試驗規則

●高等官辨護  
士受驗必携

●大日本民法要義

●大日本民法

●大日本民訴訟法

●大日本刑訴訟法

●大日本商法

●民法人事篇

●裁判所構成法

●改正商法

●正集會政社出版版權法

全一册

特價 金壹圓八拾五錢  
郵稅 金六

全一册

特價 金九拾三錢  
郵稅 金拾

全一册

特價 金三拾  
郵稅 金六

全六册  
內一册出來

一册正價金二十八錢  
郵稅 金四

紙質上等美本

紙質上等美本

紙質上等美本

紙質上等美本

紙質上等美本

紙質上等美本

紙質上等美本

紙質上等美本

●正府縣制郡制

●正獨逸刑法

●正獨逸治罪法

●正獨逸商法

●正獨逸裁判所編成法

●正獨逸訴訟法

●正緬氏古代法

●國家法制起原

●會社法

●日本流通手形法述義

●府縣郡制釋義

紙質上等美本

菊判大本全二册

菊判大本全二册

菊判大本全一册

菊判大本全一册

菊判大本全一册

全一册

全一册

全一册

全一册

全一册

正價 金五

正價 金二十

正價 金二十五

正價 金十五

正價 金十五

正價 金壹

正價 金十一

正價 金七

正價 金十一

正價 金十四

正價 金八

大藏省主税官米國法律學士目賀田種太郎先生校閱  
小野崎五助・松光萬平兩先生共著

●國稅滯納處分法解釋

行政裁判所評定官法學士樋山霞之先生訂正  
會計検査院検査官藤三輪一夫先生著

●本行政裁判法講義

獨逸警視總監伯爵ヒュー・デア・グレン・氏原著  
内閣法制局參事官兼書記官中根重一先生譯述

●獨學政典

一名獨逸政務調查書

●農業保險論

内閣總理大臣陸軍大將伯爵山縣有朋公題辭  
内務大臣品川子爵序・全權公使野村子爵序  
農科大學教師獨逸政治大博士ヘ・マイニツト氏著

●自治制講義

一名日本農民地位改良策  
内務省法律顧問自治制編纂委員モントシ氏譯述

●地方財政學

帝國大學教師マクトル・ラートゲン氏譯述

●農業經濟論

品川内務大臣序文・獨逸大博士ウヰルヘルム・ロツンネル氏著

正價 金三 十 錢  
郵稅 金四 拾 錢

正價 金一圓 八 十 錢  
郵稅 金十 錢

正價 金一圓 五 十 錢  
郵稅 金十 錢

正價 金六 十 錢  
郵稅 金六 十 錢

正價 金五 十 錢  
郵稅 金五 十 錢

正價 金三圓 五 十 錢  
運賃 凡 金三 十 錢

獨逸協會學校御版

●地方自治論集

帝國文科大學教師マクトル・ラートゲン氏譯述

●行政學

宮中顧問官芳川正閣下題辭・獨逸エー・ヘルロ氏原著  
第一高等中學校教授寺田勇吉先生・平塚定二郎先生共譯

●財政原論

日本銀行員栗村實亮君編

●銀行要鑑

帝國大學教師マクトル・ラートゲン先生・講述  
獨逸協會教師マクトル・ミハエリス先生譯述

●工商政策論

米國工學博士日本工學士南常次郎先生著

●衛生工事新論

法制局參事官兼獨逸醫學官中根重一先生著

●鐵道問題

山谷鶴次郎先生編

●醫事衛生制度全書

醫務省參事官法學士島山剛太郎先生述

●狩獵規則詳解

正價 金七 二十 錢  
郵稅 金七 二十 錢

正價 金十 錢  
郵稅 金十 錢

正價 金一 十 錢  
郵稅 金一 十 錢

正價 金八 十 錢  
郵稅 金八 十 錢

正價 金七 二十 錢  
郵稅 金七 二十 錢

正價 金六 十 錢  
郵稅 金六 十 錢

正價 金一圓 二 十 五 錢  
郵稅 金一圓 二 十 五 錢

正價 金二 十 錢  
郵稅 金二 十 錢

正價 金三 十 錢  
郵稅 金三 十 錢

●日本藥局方

全一冊

正價 金六 十 錢

●布哇國渡航者必携

全一冊

正價 金三 十 錢

●用簿記學原論

全一冊

正價 金六 十 錢

●用簿記學原論例式

全一冊

正價 金三 十 錢

●商業沿革史

全二冊

正價 金一 十 錢

●商業博物誌

全二冊

正價 金一 十 錢

●商業工藝史

全二冊

正價 金一 十 錢

●清國通商總覽

全三冊

正價 金 八 圓

●大日本商業史

全二冊

正價 金一 十 錢

●國語五郎先生著

●官民必携

全一冊

正價 金五 拾 錢

●藤川春則先生著

●評註先哲手簡

全一冊

正價 金六 拾 錢

●故白河樂翁公遺著

●退閑雜記

全一冊

正價 金五 拾 錢

●樞密院閣下木子府序 ●外務部顧問官關澤藏先生著

●時事漫評

全一冊

正價 金四 拾 錢

●文學博士田野安禎先生序 ●吉田升六郎先生編

●忠勇龜鑑

全一冊

正價 金四 拾 五 錢

●有栖川宮殿下小松宮殿下故山田伯隱辭 ●村田嘉次郎先生著

●大村益次郎先生傳

全二冊

正價 金五 拾 錢

●關熊太郎先生著

●千島探險誌

全一冊

正價 金四 拾 錢

●文部大臣井上毅公著

●北海道意見

全一冊

正價 金四 拾 錢

●故左兵衛權少將松平定信朝臣遺著

●樂翁公遺書

全二冊

正價 各金七 拾 五 錢

麻鏡斐先生著

中興美談

麻鏡斐先生著

東北偉人

子爵由利公正著

近世實業談

國華插畫

國華插畫

每月一册發行 一册

十四

正價 金六拾

郵稅 金四拾

正價 金三拾

郵稅 金四拾

木版採色摺之部

- 久國守景梅高士圖
- 平治物語
- 鳥羽正統傳山越起圖
- 此山忠孝花并傳圖
- 全
- 後屋宗達
- 前九年合戰繪卷
- 春日隆能源氏繪卷
- 鳥羽正統傳
- 武宗皇帝御筆
- 吳道子筆

金二十五錢  
金六十錢  
金三十錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢

- 狩野芳雄筆牧童圖
- 狩野宣華筆美人圖
- 狩野春勝筆竹林七賢圖
- 狩野月堂筆美人圖
- 狩野安物筆御前
- 狩野行物筆御前
- 狩野宗信筆美人圖
- 狩野多川歌麿筆美人圖
- 狩野川春華筆美人圖
- 狩野一筆筆花鳥圖
- 同 筆花鳥圖
- 士駒草紙繪卷

金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢

○

- 狩野雅樂介三聖吸龍圖
- 長澤慶雲筆花推鹿圖
- 因陀羅觀于筆拾得圖
- 英一蠟筆山水圖
- 後三年合戰繪卷
- 夏蛙筆山水圖
- 殿島經卷繪卷
- 天平齋野子信常筆天圖
- 李延華木芙蓉圖
- 狩子成筆松下布袋圖
- 宮川長春筆美人幽涼圖
- 狩野常信筆桐花風扇圖
- 天狗草紙繪卷
- 宮川長春筆美人圖
- 岩佐又兵衛筆美人圖
- 同
- 本阿彌光甫筆紫藤丹楓圖
- 菱川派美人圖
- 馬遠筆寒江獨釣圖
- 雲村野花鳥圖
- 狩野正信筆三聖圖
- 正統筆舞妓圖
- 春日隆能筆土佐大納言繪卷
- 尾形光琳筆花并圖
- 松花堂花鳥圖
- 寫真版之部
- 我二直庵電寫圖
- 土佐光信筆福壽圖
- 門無開筆仙人道伯圖
- 巡慶作文珠菩薩影像

金三十錢  
金二十五錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢  
金三十錢

- 雪村筆花鳥圖
- 奕麗王夜叉金剛彫像
- 雪舟筆山水圖
- 十一面觀自在尊彫像
- 海北友雪筆山水圖
- 伊藤若冲筆鯉魚圖
- 周文筆寒山拾得圖
- 藤原信實筆北野綠起繪卷
- 森坦仙筆猿猴圖
- 春日隆能筆源氏物語繪卷
- 稻一筆筆
- 狩野松榮筆上下龍圖
- 長澤慶雲筆伯虎畫符圖
- 啓書肥筆山水圖
- 乾漆製伎藝天女彫像
- 圓山應舉筆雜圖
- 橋本雅邦筆寒山拾得圖
- 啓書肥筆竹林七賢圖
- 初音之藤繪卷
- 巡慶作雜居士彫像
- 無著菩薩彫像
- 奈良興福寺金堂丙佛像
- 宮川長春筆美人圖
- 狩野元信筆三笑圖
- 狩野元信筆仙人圖
- 探幽筆山水圖
- 時繪初音集

金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢  
金二十五錢

十五



奇異妙趣如スヘク百花爛熳芳容麗耶タリ英人ハ嬌笑シ禽鳥ハ鸚鵡ノ聲ヲ發セントス神影語逸ニシテ俚俚典雅混同  
ノ念自ラ浮フ或ハ雅致ヲ賞スヘキアリ或ハ古色ノ爛然タルアリ而モ之「面ノ紙上之ヲ掛軸トナスヘク之ヲ屏風ト  
ナスヘク之ヲ額面ニ之ヲ高帖トナスヘシ」見心神爽快再臨陶宇清潤タリ這様ノ佳物之ヲ國華ノ捕擷トナス抑モ國  
華ハ本邦美術ノ精華神髓ヲ發露ニ備ヘ發揚ヲ全シテ 畏キ御邊ノ御劉覽ヲ索フスル光榮閣龍  
ニ發願スルモノニシテ毎發宮内省ヘ御買上ナリ

世界大博覽會ニ出品セリ實ニ吾國紳士必須ノ珍物  
座側之アレハ光輝爲ニ倍セン

文部省檢定 濟  
文學博士重野安釋先生編輯

●高等小學修身  
●尋常小學修身

生徒用  
全四冊 正價 金四十二錢  
郵稅 金十六錢

文部省檢定 濟  
文學博士重野安釋先生校閱  
八尾 編輯 所編輯

●高等小學修身  
●尋常小學修身

教師用  
全四冊 正價 金八十二錢  
郵稅 金五十四錢

本書は、教育に關する、勸諭の御主意に基き、小學校令第一條に據る、道德教育及國民教育に、必須なる徳性  
を涵養するを以て、主眼とし、本書は、毎冊、勸諭の御主意を基とし、小學生の年齢に應じ、其の程度を酌  
量し、諸般の徳性を實踐修行せしむるを以て、主意とし、本書に掲ぐる俚語新言は、簡明にして、口調善く且意  
味の解し易きものより、次第上、高尚なるもの乃至、本書の事實は、生徒の、解し易き庶言及本邦先賢故人  
の傳記より始め、間、我が國体ニ寄る支那西洋の事實を次ふ、本書は、一事項を教授する方法を、主とし、事  
實より入りて、俚語新言に收め、專、歸納法に資る、假名文字は、片假名より平假名に及び、平假名は、嬰体  
を用ひず、漢字は、字畫の少きものより、漸次多きもの及び、音韻は、勉めて、異近にして、解し易きを用ふ  
●本書の挿畫は、故實を正し、最も品格善く最も趣味に富むるのを擇み、生徒をして、德行上の觀念を惹き起さ  
ゆんことを勉めたり ●本書の教授法等に就きては教師用に於て、之を詳悉し、以て教授の任に當る諸氏の參照に  
供す。

西村茂樹先生校閱 ●日下部三之介先生編輯

●日本女子修身訓

生徒用  
全四冊 正價 金三十八錢  
郵稅 金八錢

●日本女子修身訓

教師用  
全四冊 正價 金四十二錢  
郵稅 金八錢

●高等小學新歷史

全四冊 正價 金五十五錢

●高等小學新地理

全四冊 正價 金五十五錢

●高等新理科

全四冊 正價 金五十五錢

●小學祝祭日唱歌附略譜

全一冊 定價 金三錢五厘  
郵稅 金二錢

●小學祝祭日唱歌附略譜及  
檢用

全一冊 定價 金二錢  
郵稅 金二錢

●小學祝祭日唱歌附略譜及  
檢用

全一冊 定價 金二錢  
郵稅 金二錢

文學博士重野安福先生編輯  
●漢文國史眼  
鈴木經樹先生著  
●南洋風物誌

全一册  
全一册

(近刻)  
(近刻)

日本新聞社出版日本叢書

●近時政論考  
●行政時言  
●海國政談  
●豫算辨妄  
●豫算論  
●瀬祭書屋俳話  
●發天地探檢記  
●原政及國際論  
●依綠軒漫錄

全一册  
全一册  
全一册  
全一册  
全一册  
全一册  
全一册  
全一册  
全一册

郵稅天  
正價金三拾圓  
正價金拾貳圓  
正價金拾圓  
正價金拾圓  
正價金六圓  
正價金六圓  
正價金八圓  
正價金拾五圓  
正價金貳拾圓  
正價金貳拾圓

Handwritten notes on the left margin.

